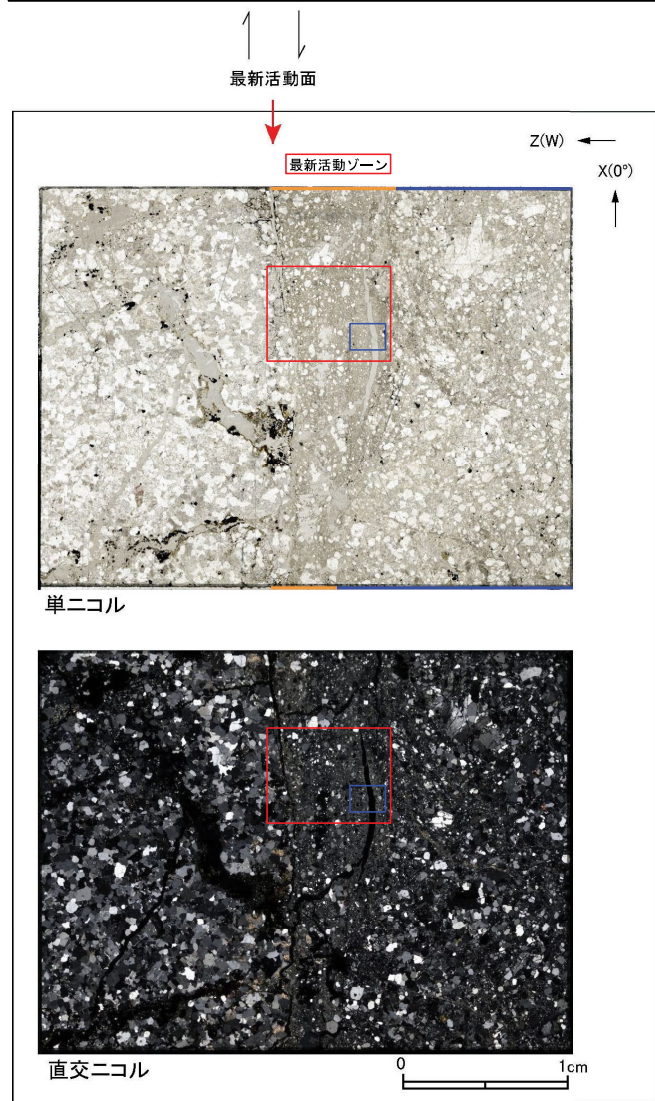


H24-D1-3 深度52.13~52.28m (2/2)

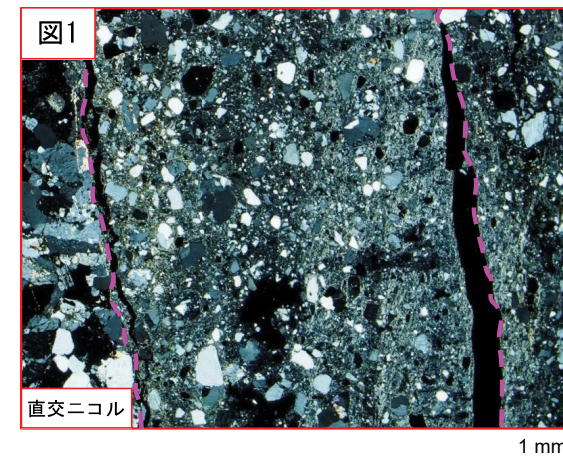
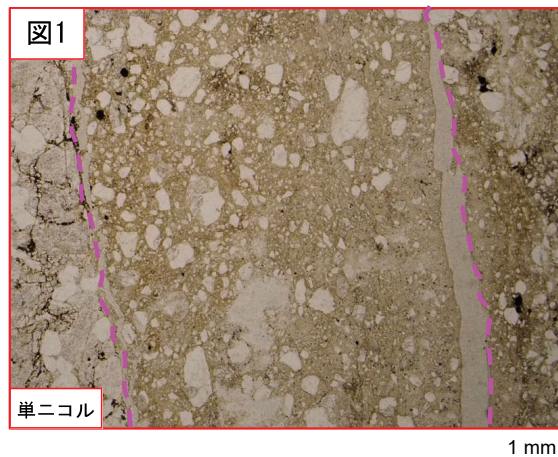
57のエビデンス (薄片観察結果) (2/2)

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

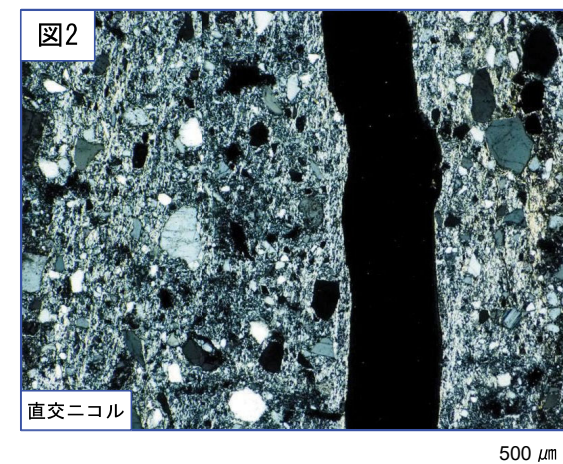
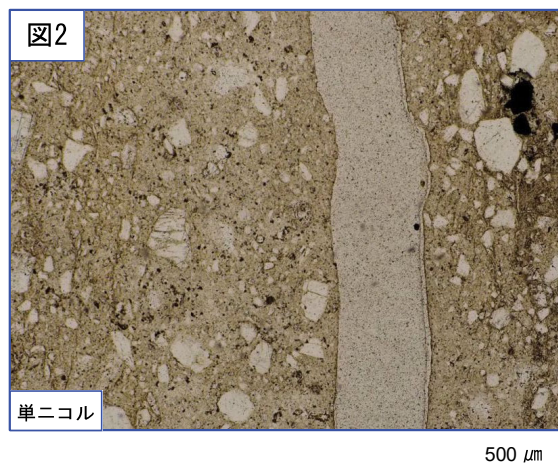
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。



最新活動面認定根拠(H27-B-3 深度26.70~26.90m)

58のエビデンス (最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度26.71mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※: 写真上は白色で記載
最新活動面



凡例
最新活動面

青枠部拡大

0 5 cm

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(H27-B-3 深度26.70~26.90m) 58のエビデンス (ガウジ幅)

・実測した断層ガウジの幅の合計は0.2cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

0 5 cm

・実測した破碎幅は1.0cmである。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲*
※:写真上は白色で記載

明瞭なせん断構造・変形構造の有無(H27-B-3 深度29.10~29.12m) ^{60のエビデンス}
 (明瞭なせん断構造・変形構造)

・最新活動面に沿った断層ガウジには灰白色と灰黄褐色の層状構造が認められることから、明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とした。

コア写真

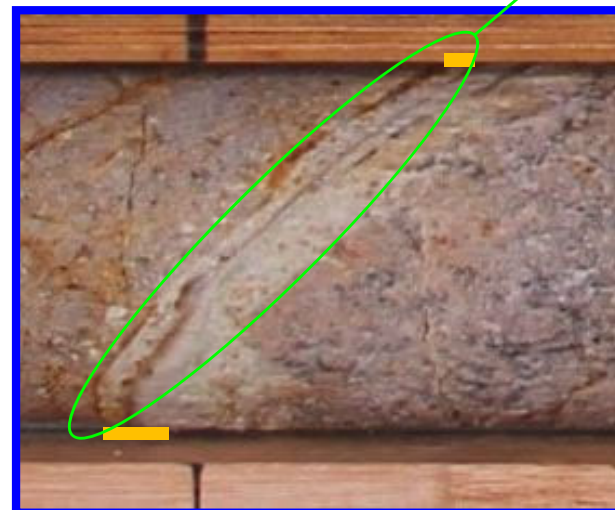


凡例

 断層ガウジ ← → 破碎部範囲* 最新活動面
 ※:写真上は白色で記載



青枠部拡大



層状構造

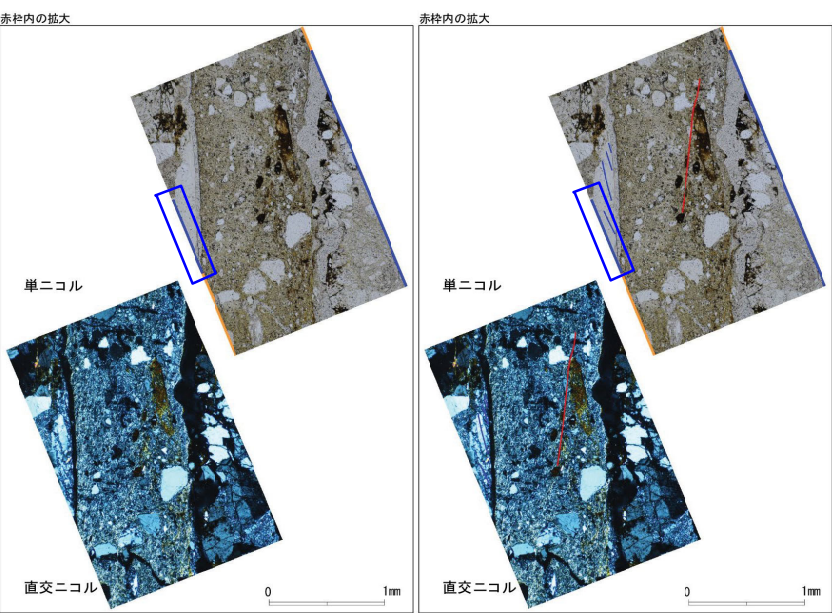
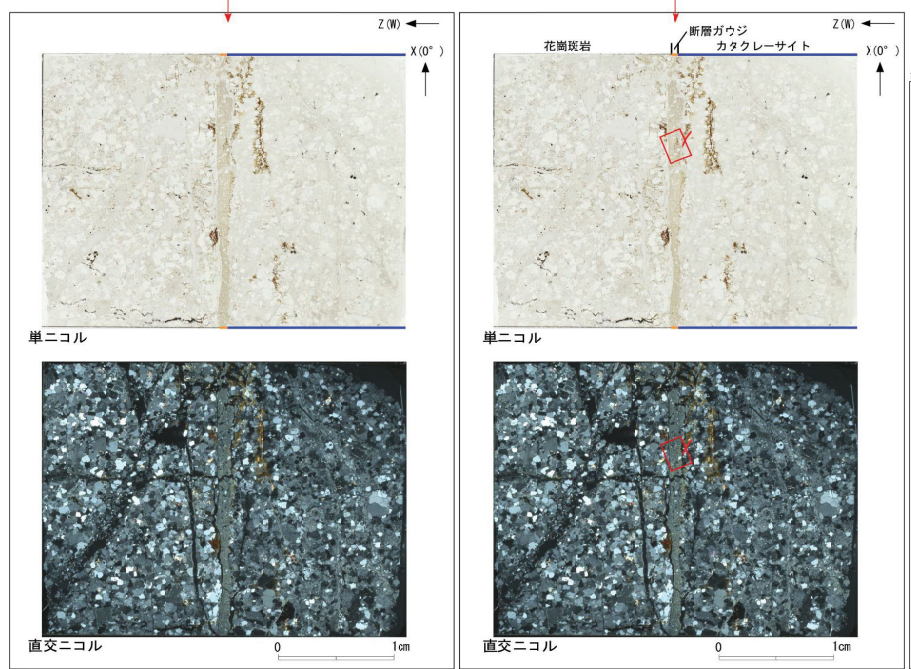
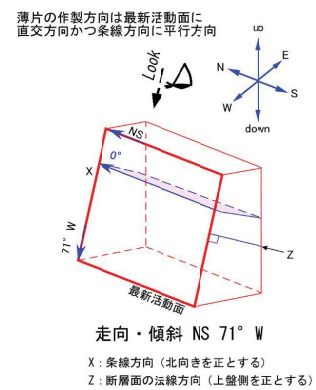
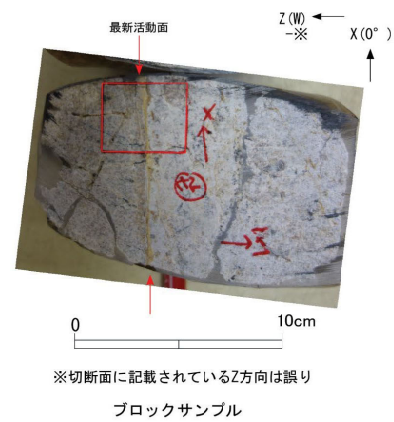
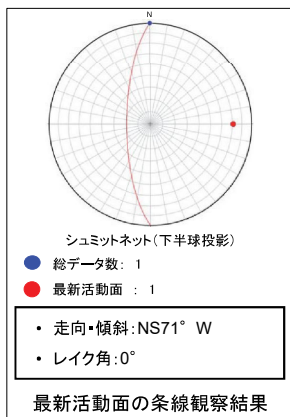
凡例

 断層ガウジ

0 5 cm

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度42.85m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。

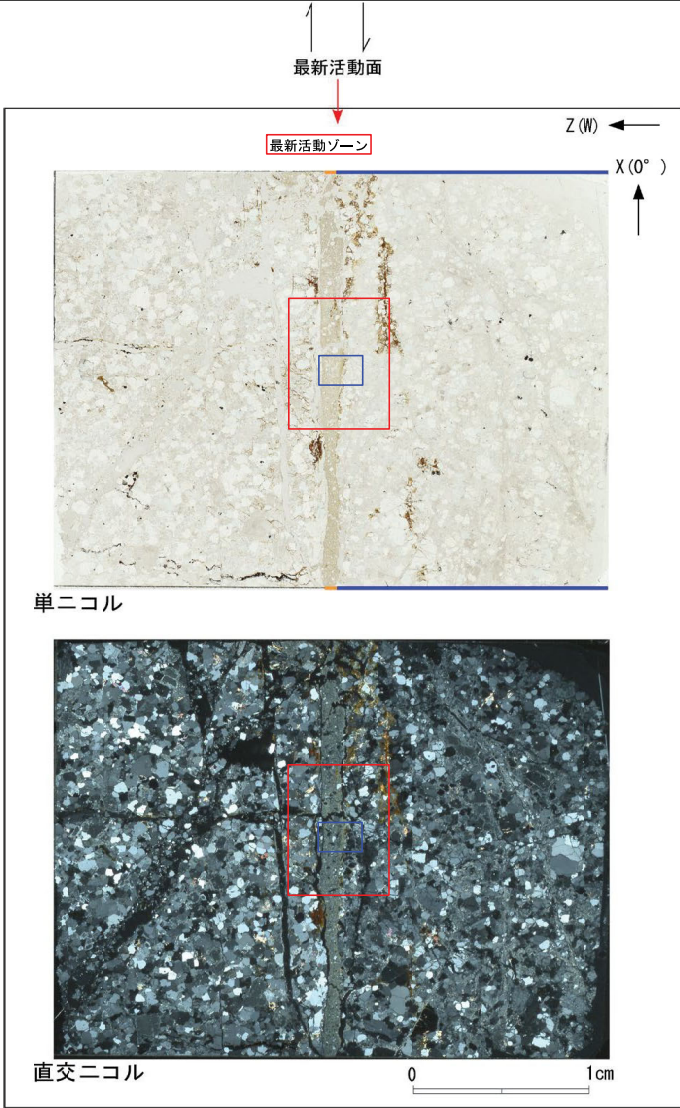
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。



H27-B-3 深度42.85~42.91m (2/2)

61のエビデンス (薄片観察結果) (2/2)

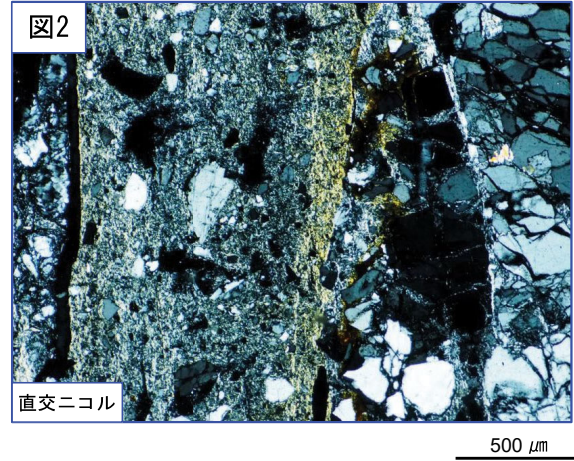
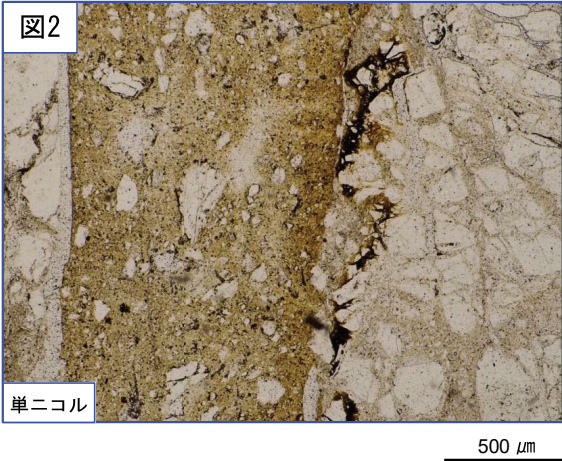
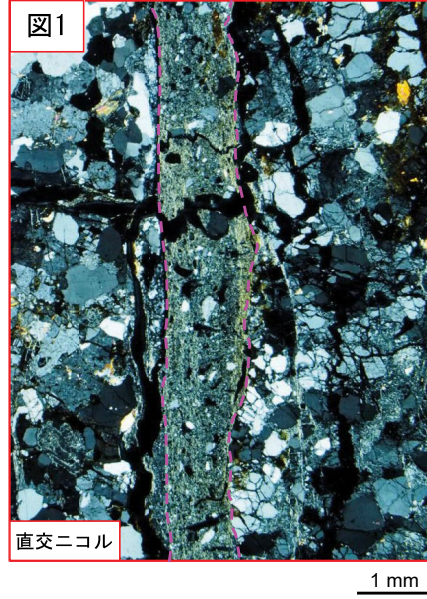
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト

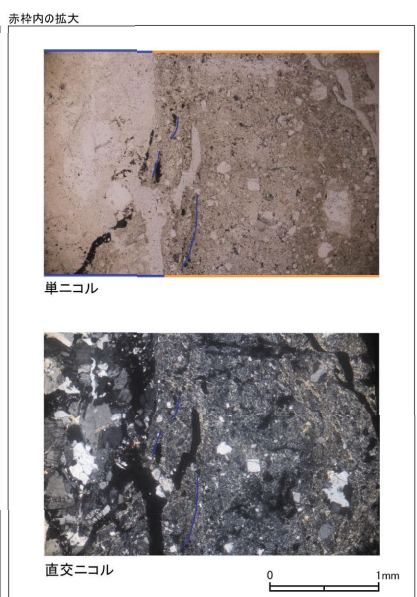
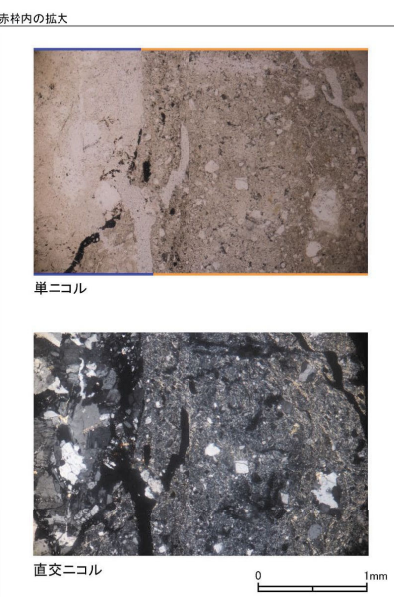
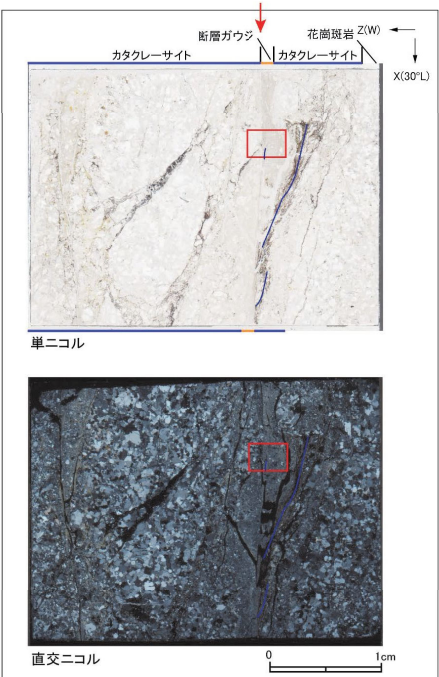
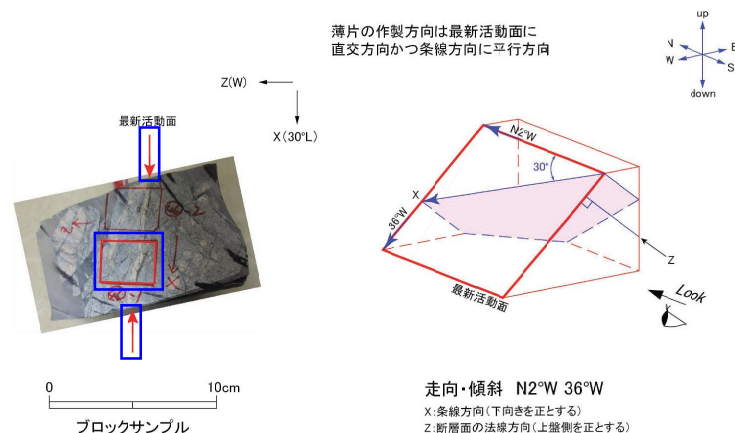
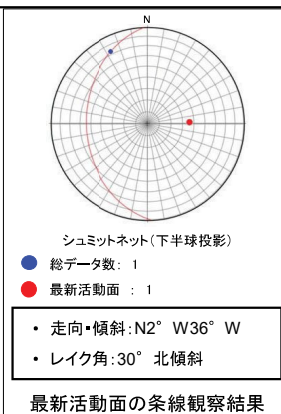


破線は帯状で直線的な範囲を示す。



・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度56.72m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

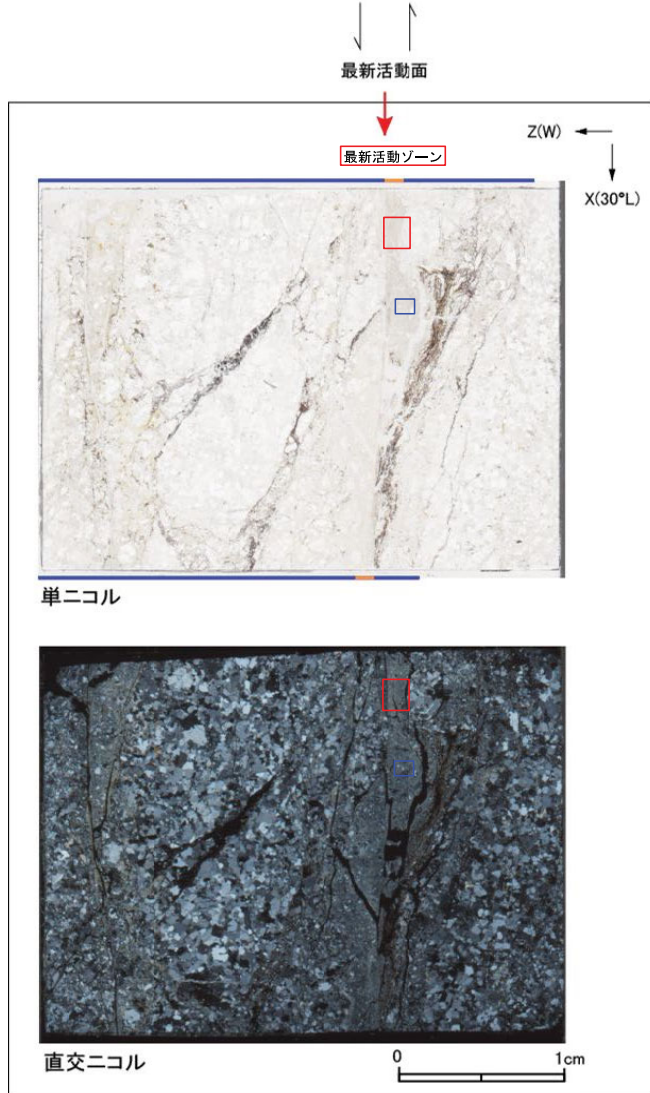


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

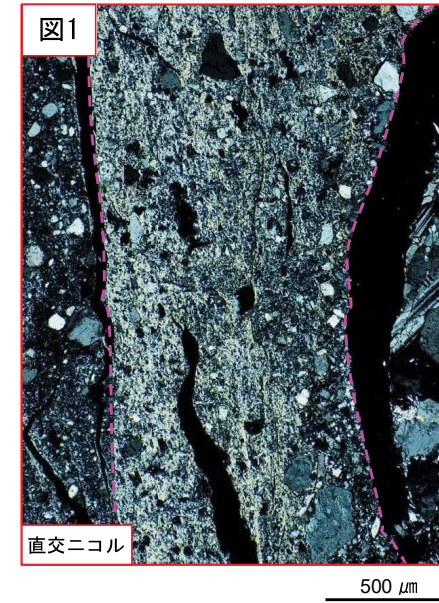
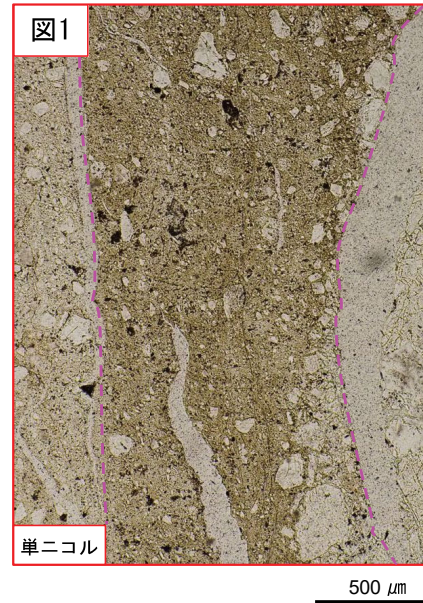
H27-B-3 深度56.69~56.72m (2/2)

62のエビデンス (薄片観察結果) (2/2)

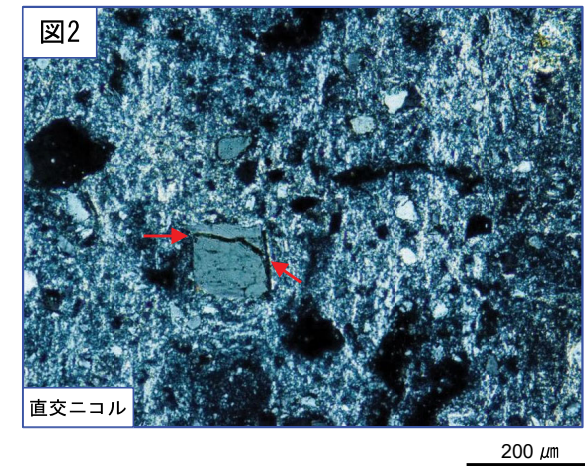
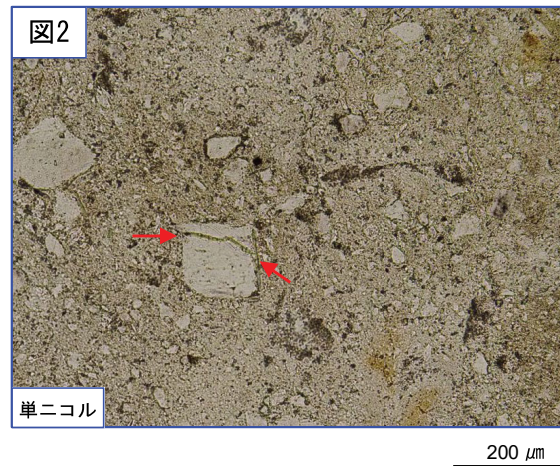
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

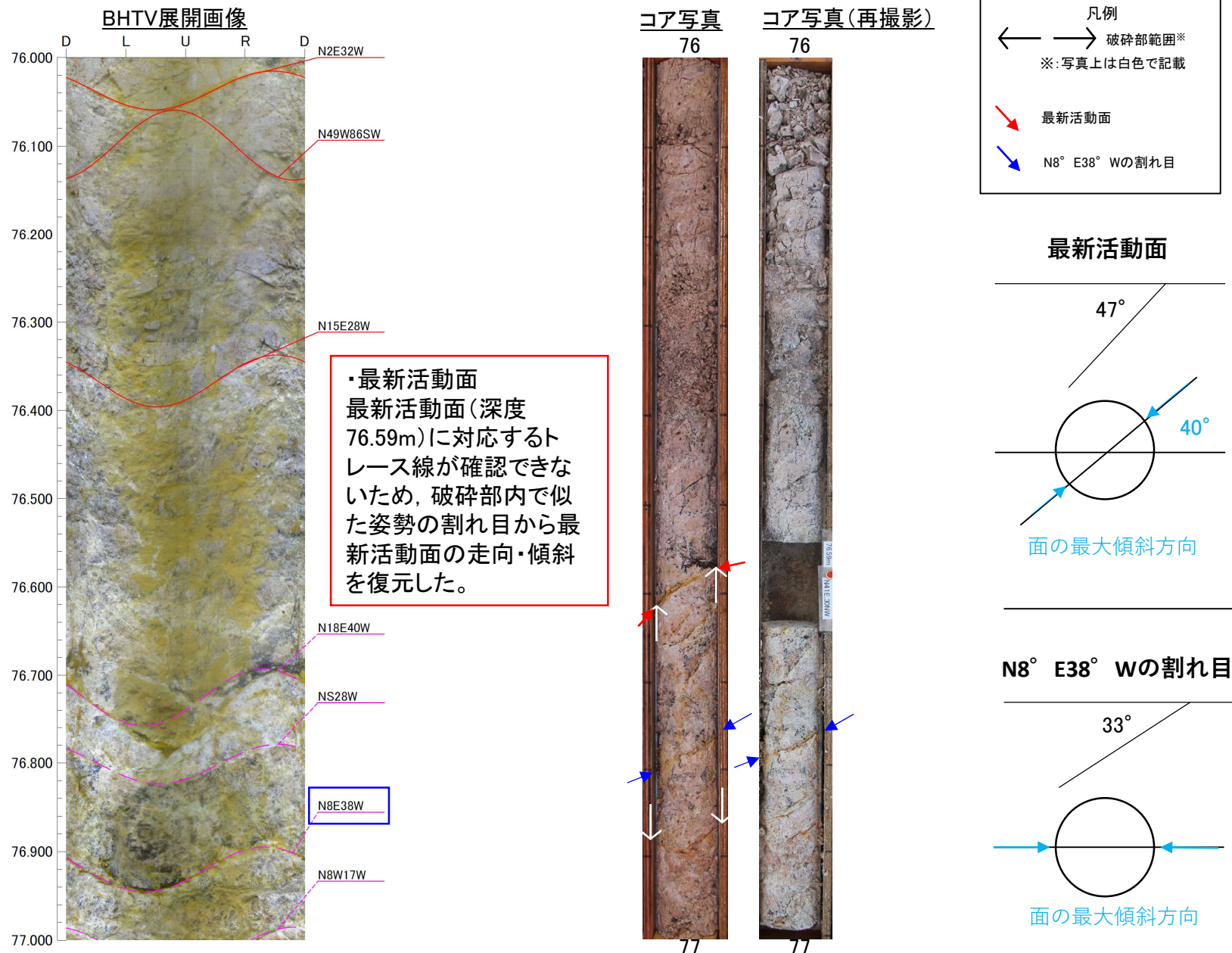


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-3 深度76.59~76.89m)

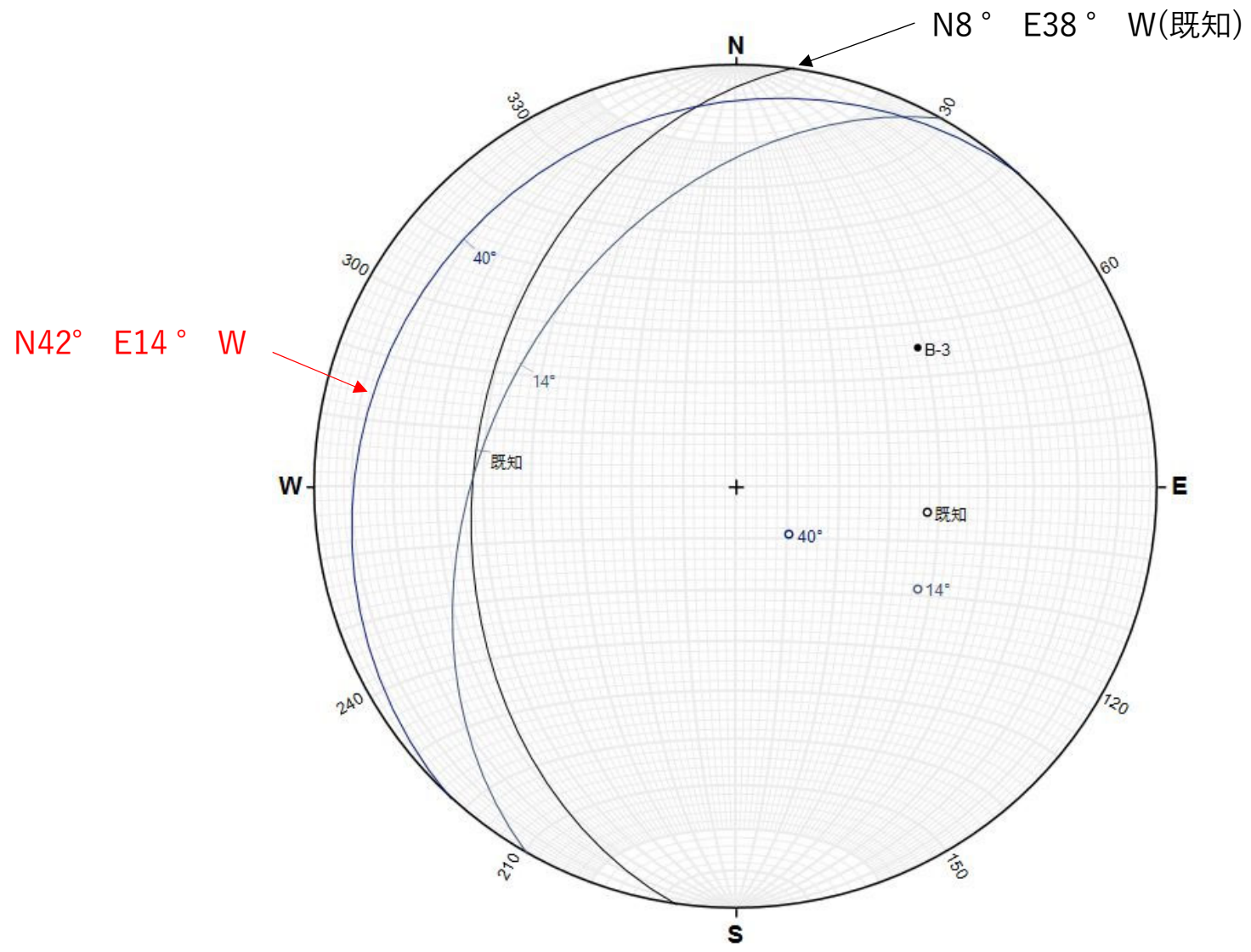
64のエビデンス
(走向・傾斜) (1/3)

・ H27-B-3孔 深度76.59~76.89mの破碎部は、最新活動面(深度76.59m)に対応するトレース線が確認できないため、破碎部内で似た姿勢の割れ目(N8° E38° W)から最新活動面の走向・傾斜を復元した。



H27-B-3孔 深度76.59m の最新活動面の走向・傾斜

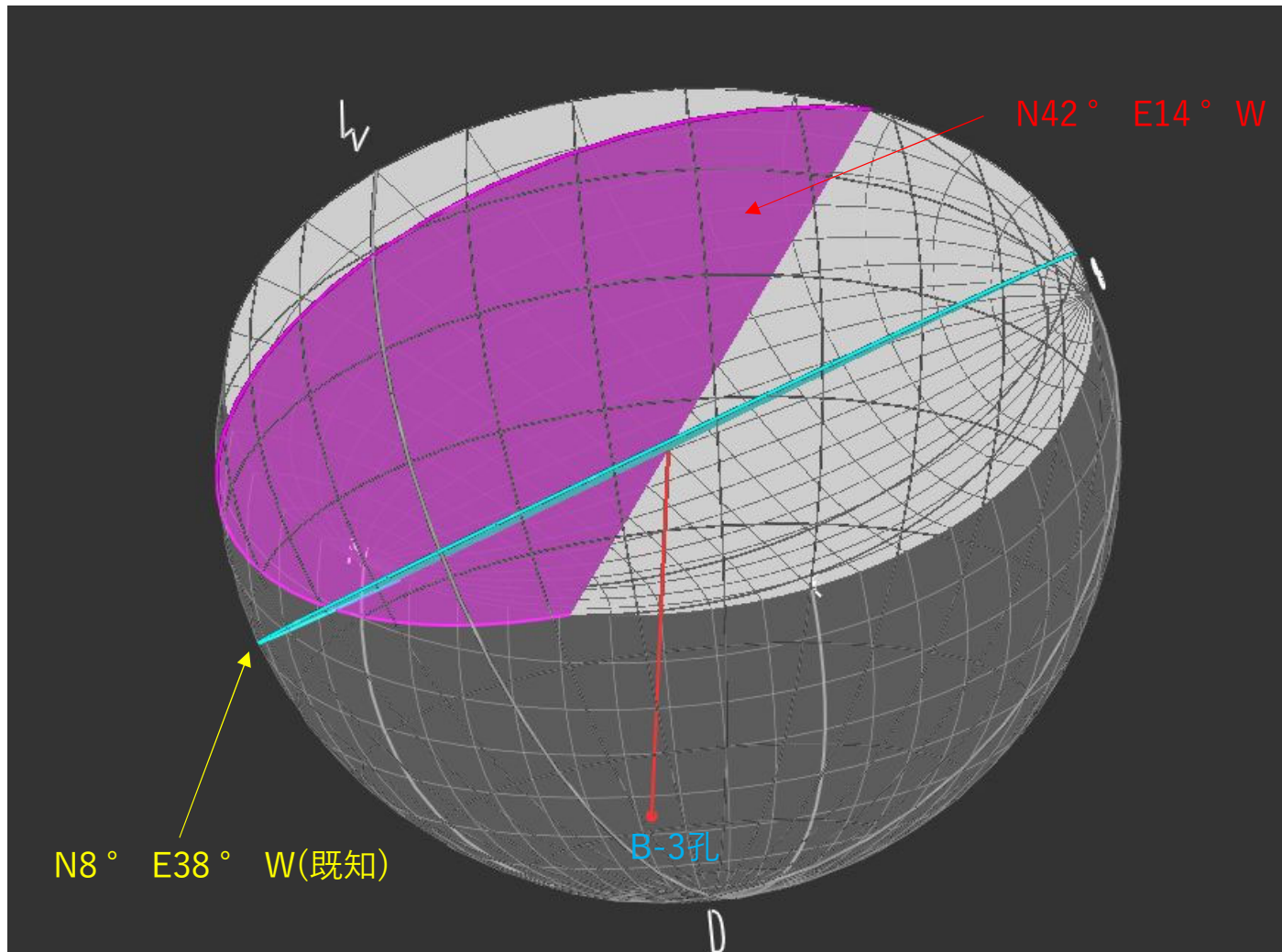
- ・ H27-B-3孔 深度76.59~76.89mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜を, 走向・傾斜が既知の割れ目の姿勢から復元を行った。
- ・ 走向・傾斜が既知の割れ目 (N8° E38° W) を, 最新活動面の見掛けの傾斜角の差14° , 最大傾斜方向のなす角40° 回転し, 最新活動面の走向・傾斜 N42° E14° W を推定した。



H27-B-3孔 深度76.59m の最新活動面の走向・傾斜

64のエビデンス
(走向・傾斜) (3/3)

- ・ H27-B-3孔 深度76.59～76.89mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜を，走向・傾斜が既知の割れ目の姿勢から復元を行った。
- ・ 走向・傾斜が既知の割れ目 ($N8^{\circ} E38^{\circ} W$) を，最新活動面の見掛けの傾斜角の差 14° ，最大傾斜方向のなす角 40° 回転し，最新活動面の走向・傾斜 $N42^{\circ} E14^{\circ} W$ を推定した。



条線観察結果(H27-B-3孔 深度76.59m)

64のエビデンス (条線)

H27-B-3孔 深度76.59mの断層面の走向・傾斜はN42° E14° W*であり, 7Rの条線が認められる(※破碎部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから, 同一ボーリングコアの他の不連続面と本破碎部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用)。

コア写真



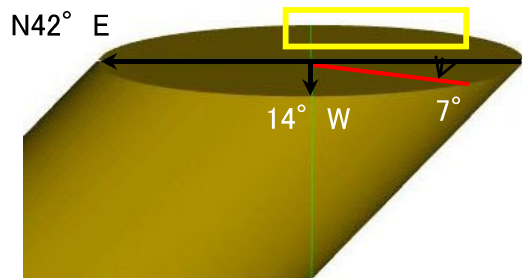
凡例

- 条線観察位置
- 断層ガウジ
- 破碎部範囲*
- 最新活動面

※: 写真上は白色で記載

観察模式図

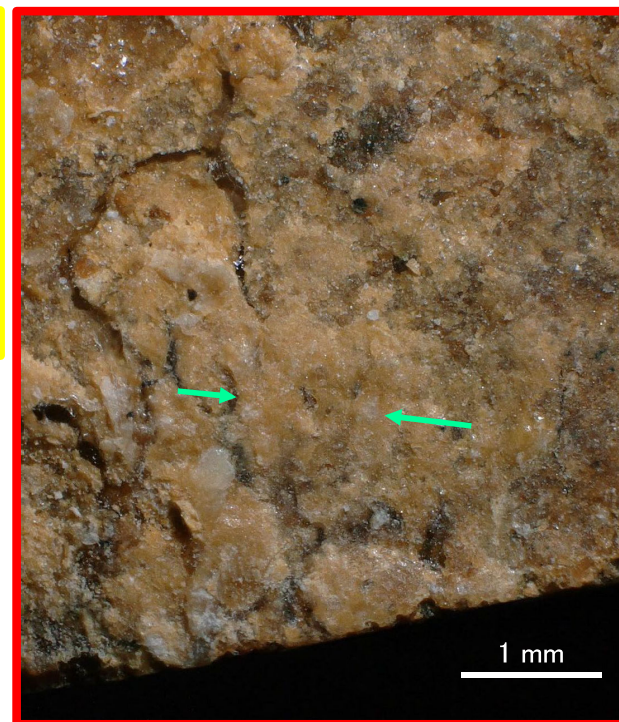
※上盤側から観察



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



凡例

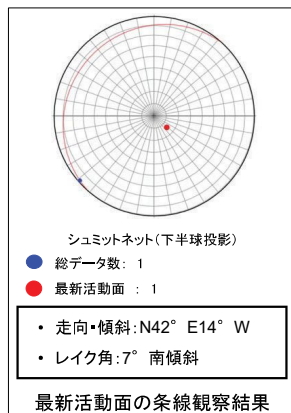
- 最新活動面
- レイク

凡例

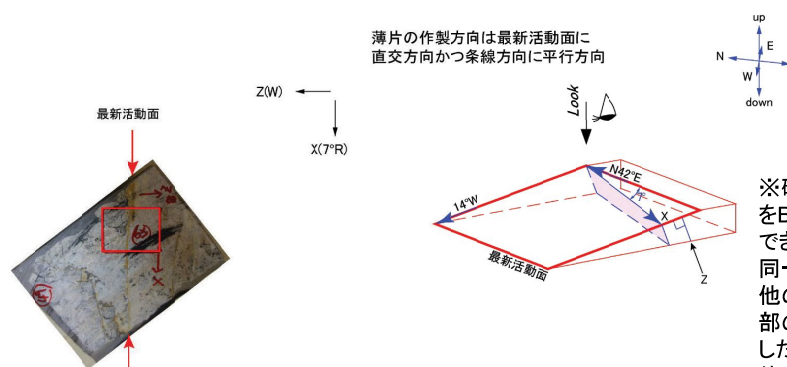
- 条線方向

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度76.59m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層カウジと判断した。

- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

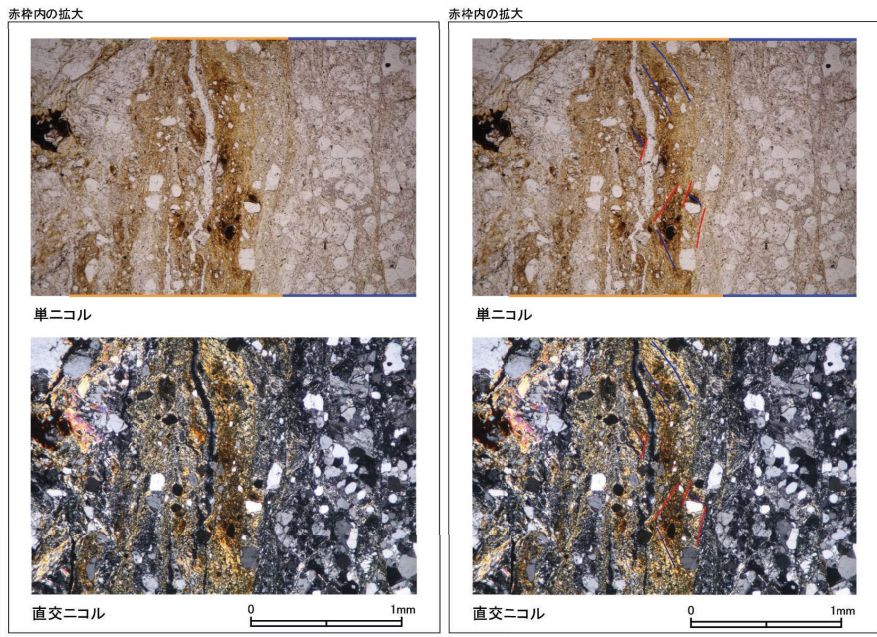
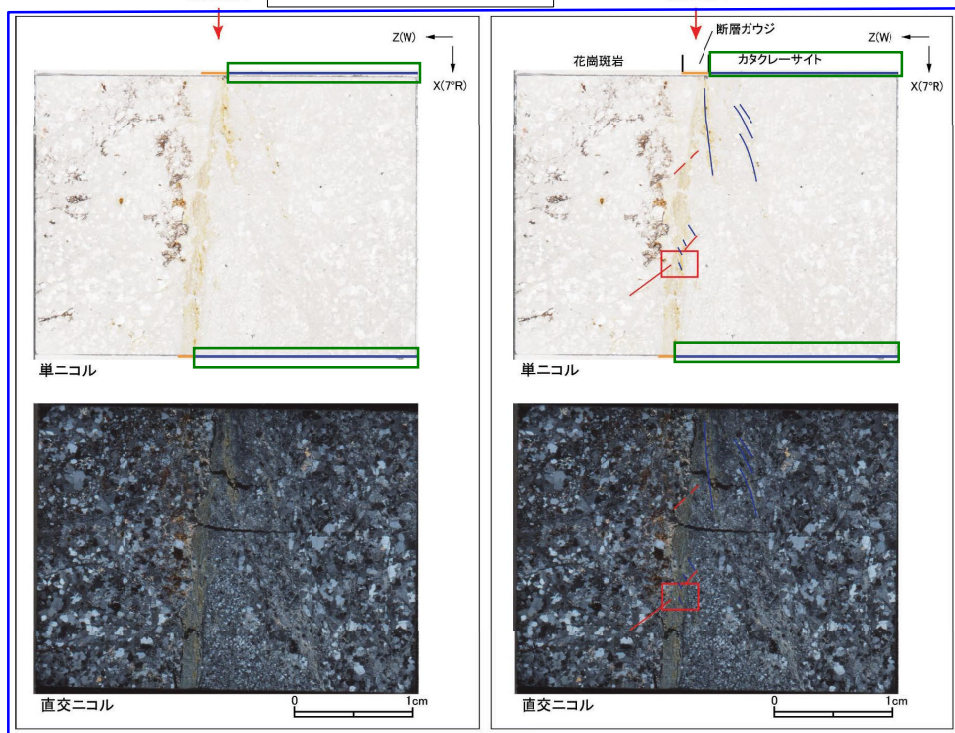


最新活動ゾーン



※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから、同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用している。

走向・傾斜 N42°E 14°W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上登側を正とする)

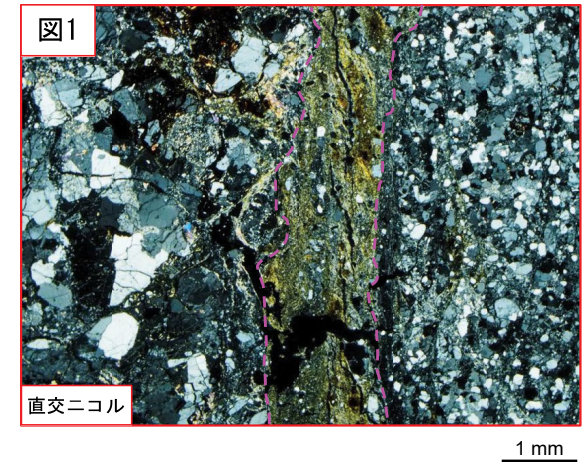
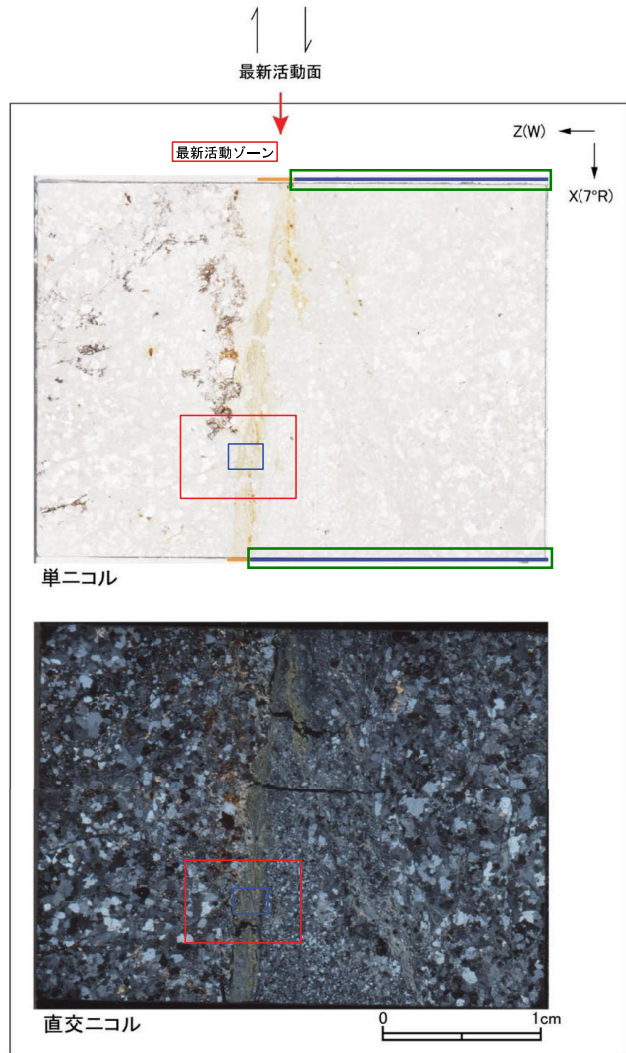


凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト
 — R1面
 — P面

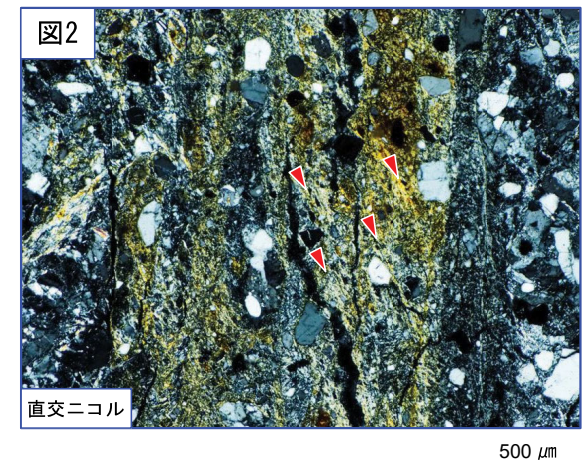
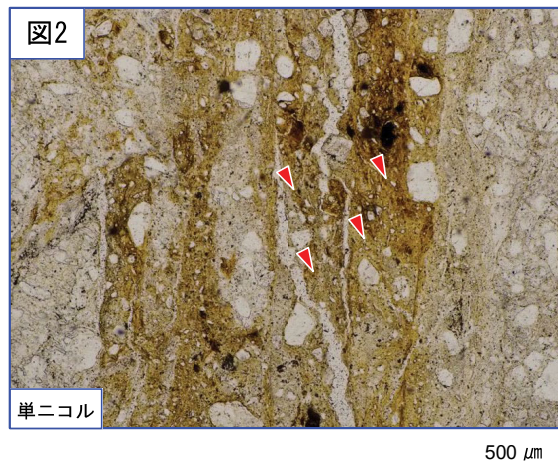
H27-B-3 深度76.59~76.89m (2/2)

緑枠：修正箇所 64のエビデンス (変位センス) (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す。



赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

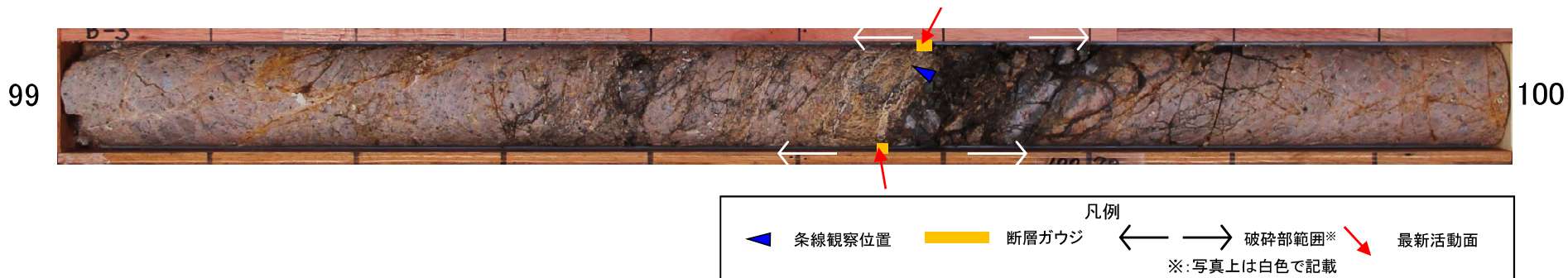
- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

条線観察結果 (H27-B-3孔 深度99.56m)

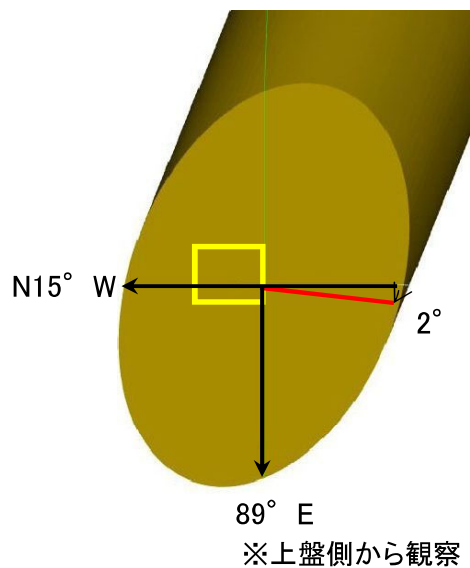
65のエビデンス (条線)

H27-B-3孔 深度99.56mの断層面の走向・傾斜はN15° W89° Eであり、2Rの条線が認められる。

コア写真



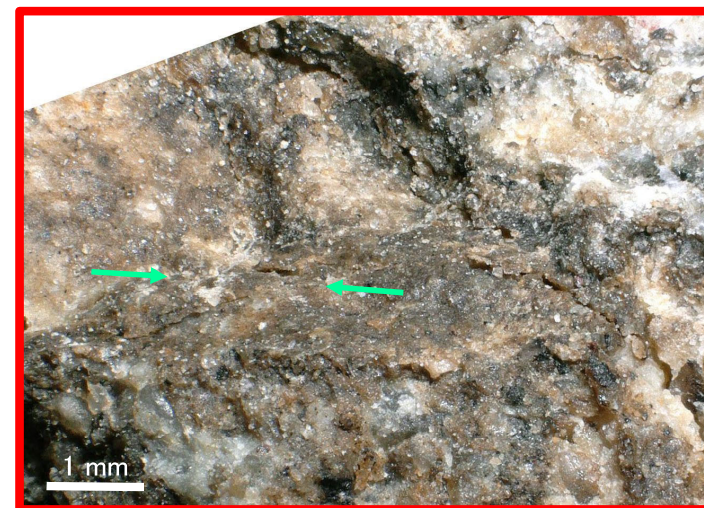
観察模式図



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度119.18mのせん断面を最新活動面に認定した。



凡例
← → 破砕部範囲※
※: 写真上は白色で記載
↘ 最新活動面



凡例
↘ 最新活動面

0 5 cm

破砕幅算出資料 (H27-B-4' 深度23.97~24.42m)

68のエビデンス (破砕幅)

- ・破砕部の区間長が長く、破砕幅を実測できないことから、図化した資料から算出した。
- ・算出した破砕幅は18.9cmである。

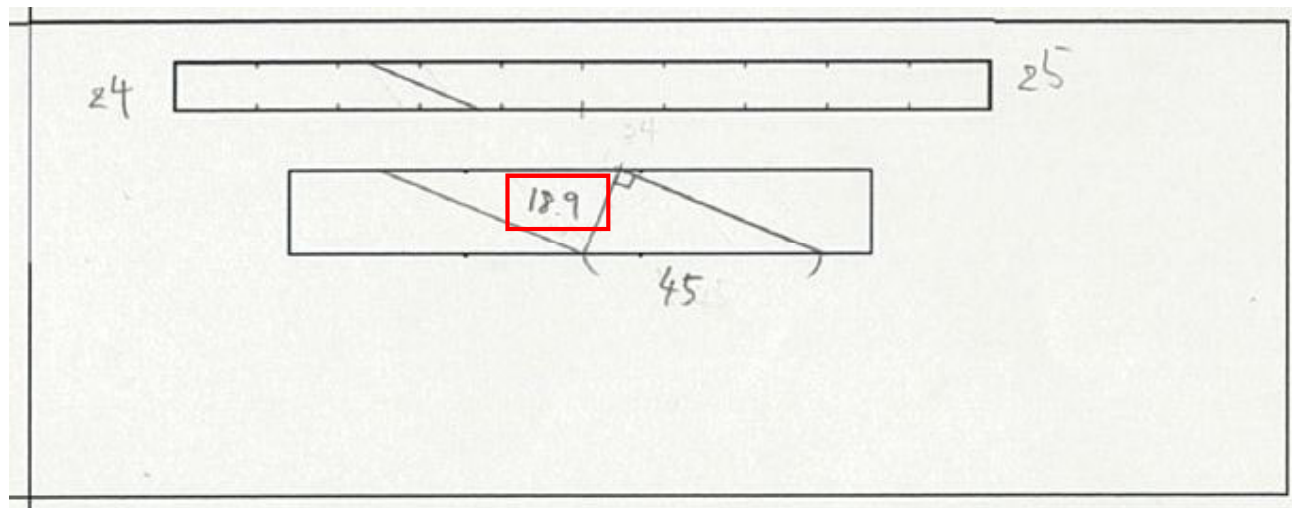
コア写真



凡例

← → 破砕部範囲※ ↓ 代表傾斜取得位置

※: 写真上は白色で記載



破砕幅算出図

凡例

コアにおける代表傾斜取得位置
(見かけ傾斜が最大となる方向から見た場合)

代表傾斜と破砕幅 (cm) の模式図

・実測した破砕幅は2.3cmである。

コア写真



凡例
← → 破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載

最新活動面認定根拠(H27-B-4 深度65.59~65.72m)

70のエビデンス (最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度65.65mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
↓ 最新活動面



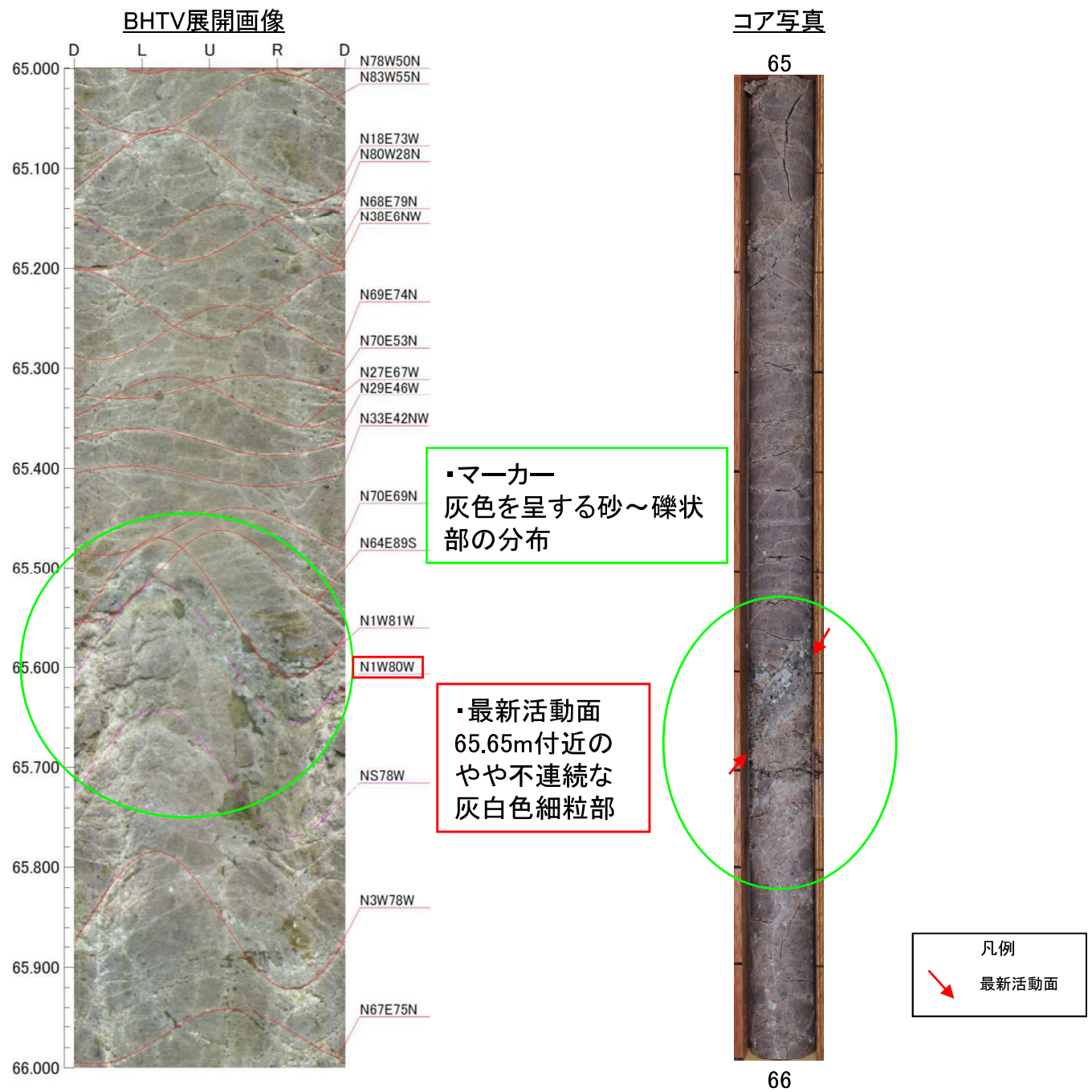
凡例
↓ 最新活動面

青枠部拡大

0 5 cm

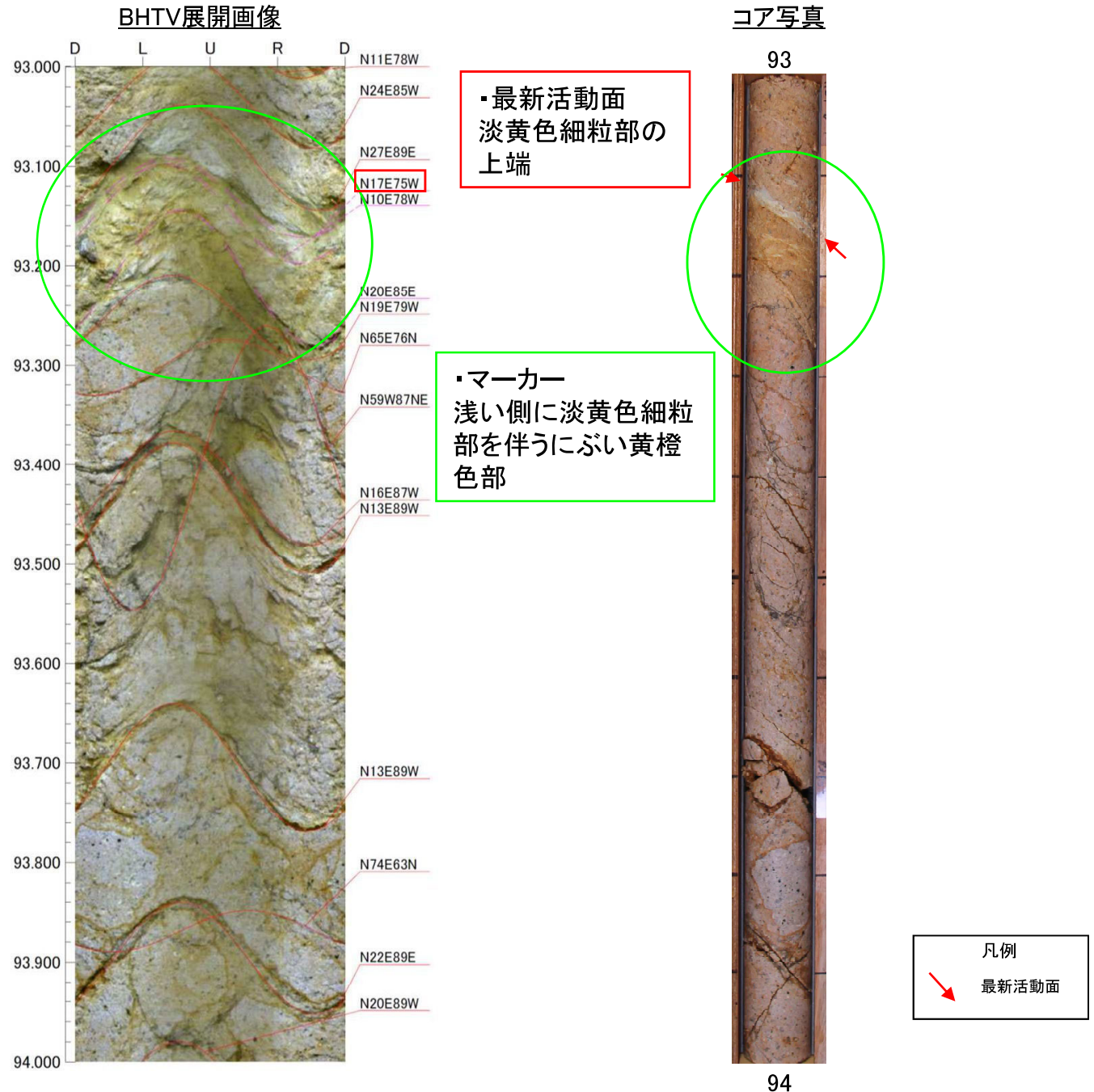
ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-4 深度65.59~65.72m) 70のエビデンス (走向・傾斜)

・ H27-B-4 深度65.59~65.72mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN1° W80° Wである。



ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-4 深度93.13~93.22m) 71のエビデンス (走向・傾斜)

・ H27-B-4 深度93.13~93.22mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN17° E75° Wである。



条線観察結果 (H27-B-4孔 深度93.13 m)

71のエビデンス (条線)

H27-B-4孔 深度93.13mの断層面の走向・傾斜はN17° E75° Wであり、42Rの条線が認められる。

コア写真

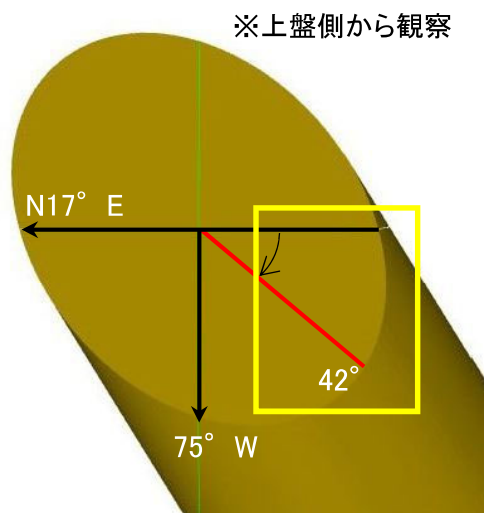


凡例

- 条線観察位置
- 断層ガウジ
- 破碎部範囲※
- 最新活動面

※: 写真上は白色で記載

観察模式図



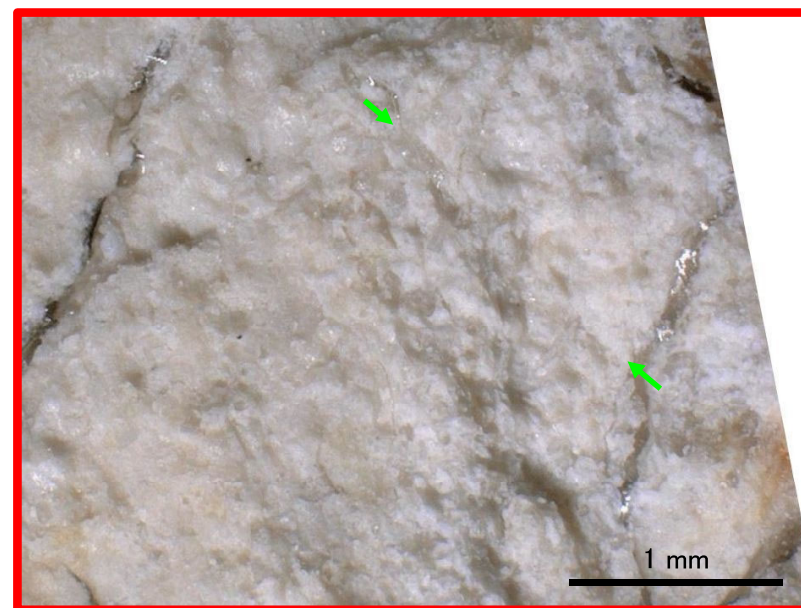
凡例

- 最新活動面
- レイク

条線観察位置拡大



赤枠内拡大



凡例

- 条線方向

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(H24-D1-5 深度47.47~47.89m) 72のエビデンス (ガウジ幅)

・実測した断層ガウジの幅は0.6cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載



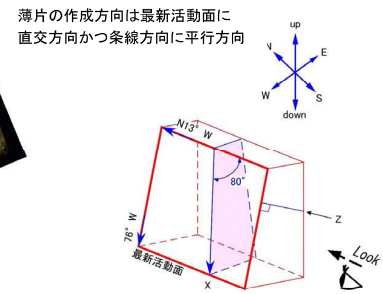
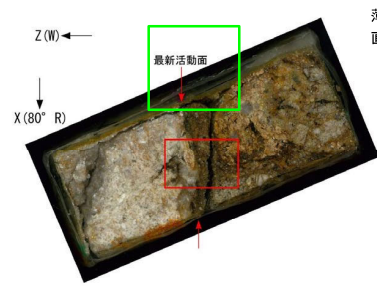
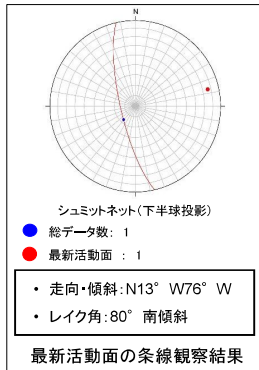
青枠部拡大



余白

D-1トレンチLカットピット K断層 (1/2)

- ・D-1トレンチLカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部は帯状で直線的である。
- 角ばった堆積物片が多い。



最新活動面

最新活動面
最新活動ゾーン

最新活動面の条線観察結果

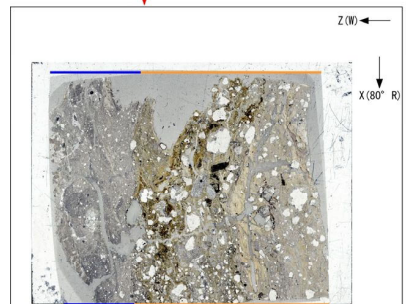
最新活動ゾーン

0 10cm

ブロックサンプル

走向・傾斜 N13° W76° W
X: 条線方向(下向きを正とする)

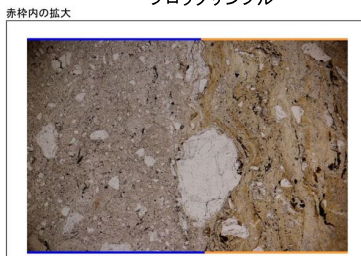
赤枠内の拡大 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



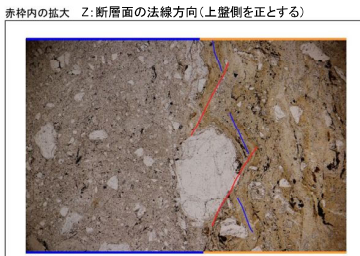
単ニコル



単ニコル



単ニコル



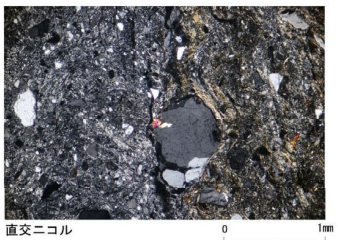
単ニコル



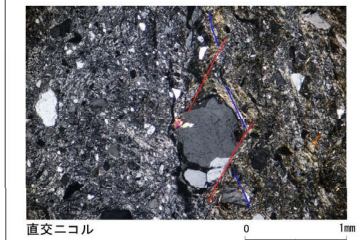
直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル

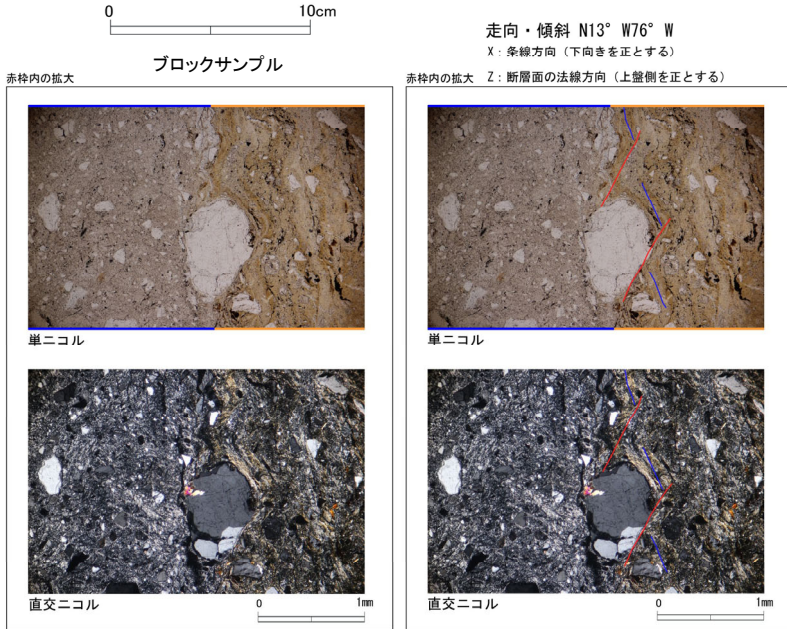
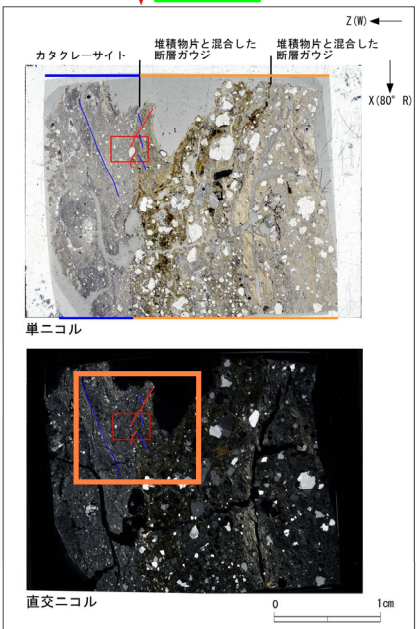
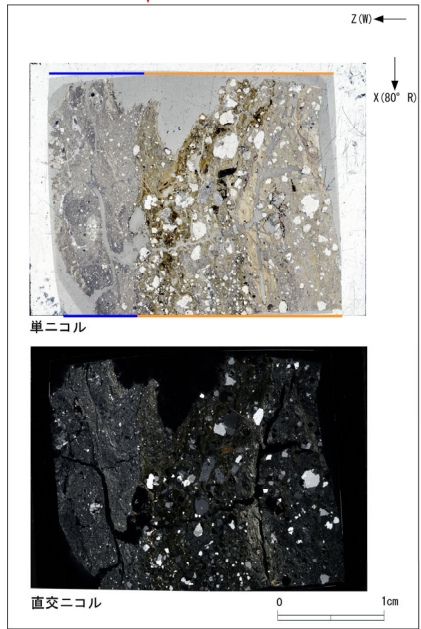
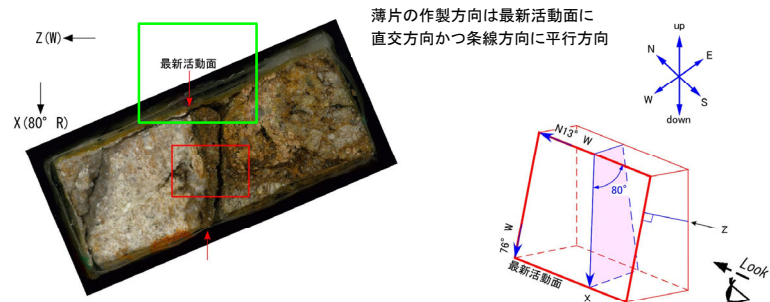
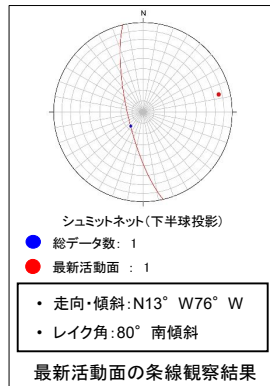
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

73 (薄片観察結果) : R1, P面の位置の誤りを修正 (橙色枠内)
 ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印は
 令和3年7月16日提出資料で修正済み (緑枠)

修正後

D-1トレンチLカットピット K断層 (1/2)

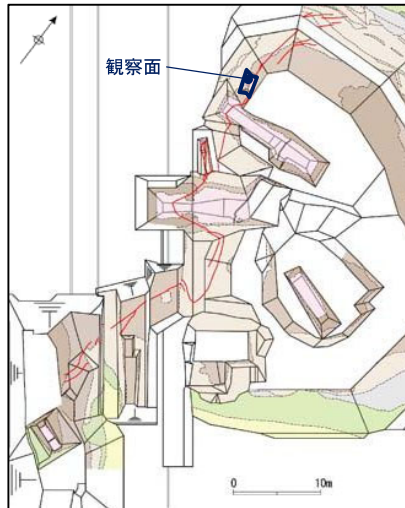
- ・D-1トレンチLカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ) **せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。**
- (断層ガウジ) **基質は粘土鉱物を主体とする。**
- (断層ガウジ) **粘土状部は帯状で直線的である。**
- (カタクレーサイト) **角ばった堆積物片が多い。**



- 凡例
- 断層ガウジ (Orange line)
 - カタクレーサイト (Blue line)
 - R1面 (Red line)
 - P面 (Purple line)

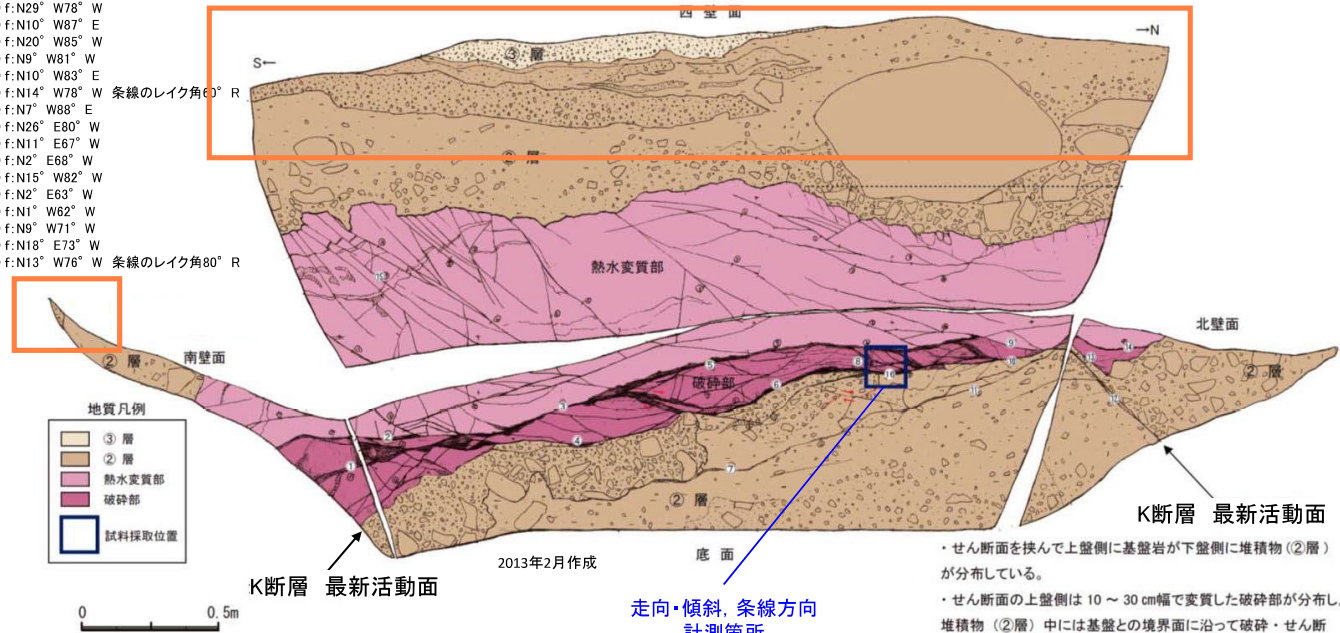
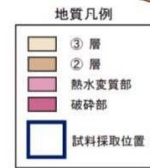
K断層の性状(Lカットピット)

- Lカットピットのスケッチを以下に示す。
- Lカットピットでは、K断層は基盤岩と堆積物(②層)とを境している。
- 最新活動面の条線方向を確認した結果、縦ずれ成分が卓越する。また、最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



調査位置図

- ① f: N29° W78° W
- ② f: N10° W87° E
- ③ f: N20° W85° W
- ④ f: N9° W81° W
- ⑤ f: N10° W83° E
- ⑥ f: N14° W78° W 条線のレイク角60° R
- ⑦ f: N7° W88° E
- ⑧ f: N26° E80° W
- ⑨ f: N11° E67° W
- ⑩ f: N2° E68° W
- ⑪ f: N15° W82° W
- ⑫ f: N2° E63° W
- ⑬ f: N1° W62° W
- ⑭ f: N9° W71° W
- ⑮ f: N18° E73° W
- ⑯ f: N13° W76° W 条線のレイク角80° R



走向・傾斜, 条線方向
計測箇所
(1箇所)

※青色は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

- せん断面を挟んで上盤側に基盤岩が下盤側に堆積物(②層)が分布している。
- せん断面上の上盤側は10~30cm幅で変質した破砕部が分布し、堆積物(②層)中には基盤との境界面に沿って破砕・せん断構造が発達している。全体をせん断する直線的な断層ガウジは認められない。変位量が数cm程度のR1面がせん断面を細かく右ずれさせている。
- 破砕部および堆積物(②層)中に認められるR1面から右ずれが判読される。

K断層の最新活動面に関するデータの計測箇所について

性状一覧表に記載した走向・傾斜, 条線方向:

全ての観察面について、断層面のトレンドを示す代表的な箇所です計測。一連の断層面については、複数計測した平均値を記載。(ただし、Lカットピットについては、走向・傾斜が断層面のトレンドを示す範囲が狭いことから1箇所とした。1-1ピット北面, 南面, 底盤については各観察面の平均値とした。)

性状一覧表に記載した断層ガウジ・断層角礫の幅:

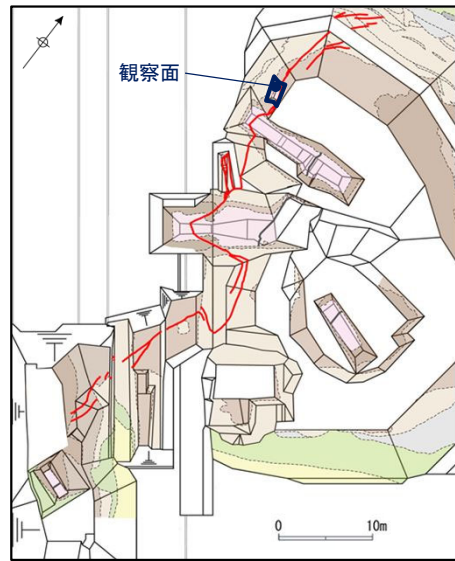
岩盤中の断層ガウジ・断層角礫について、平均的な幅を示す箇所です計測。

スケッチに記載したデータ:

上記に限らず走向・傾斜, 条線方向及び断層ガウジ・断層角礫の幅を計測可能な出来るだけ多くの箇所です計測。

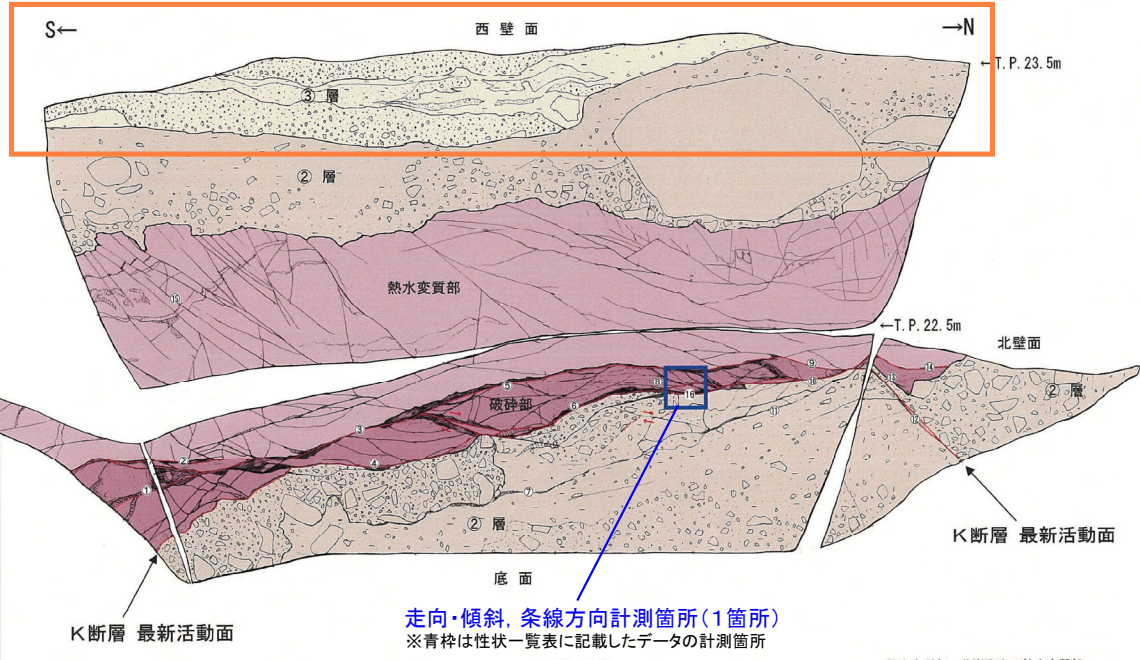
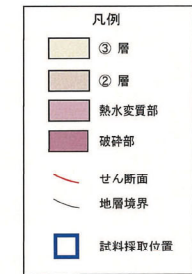
K断層の性状(Lカットピット) 73 (スケッチ) : 最新版に修正 (地層境界の見直し) (橙色枠)

- Lカットピットのスケッチを以下に示す。
- Lカットピットでは, K断層は基盤岩と堆積物(②層)とを境している。
- 最新活動面の条線方向を確認した結果, 縦ずれ成分が卓越する。また, 最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。(次頁参照)



調査位置図

- ① FN29° W78° W
- ② FN10° W87° E
- ③ FN20° W85° W
- ④ FN9° W81° W
- ⑤ FN10° W83° E
- ⑥ FN14° W78° W 条線のレイク角 60° R
- ⑦ FN7° W88° E
- ⑧ FN26° E80° W
- ⑨ FN11° E67° W
- ⑩ FN2° E68° W
- ⑪ FN15° W82° W
- ⑫ FN2° E63° W
- ⑬ FN1° W82° W
- ⑭ FN9° W71° W
- ⑮ FN18° E73° W
- ⑯ FN13° W76° W 条線のレイク角 80° R



作成日: 2022年7月5日

• せん断面を挟んで上盤側に基盤岩が下盤側に堆積物(②層)が分布している。
 • せん断面上盤側には10~30cm幅で変質した破碎部が分布し、堆積物(②層)中には基盤との境界面に沿って破碎・せん断構造が発達している。全体をせん断する直線的な断層ガウジは認められない。変位量が数cm程度のR1面がせん断面を細かく右ずれさせている。
 • 破碎部および堆積物(②層)中に認められるR1面から右ずれが判読される。

③層: 砂礫
 淡黄橙色 (7.5YR8/4 ~ 10YR8/4)
 礫率は15~20%。礫は風化した花崗岩の垂角~歪円礫。礫径は2~10mm。
 シルト質砂~砂質シルトを層状に挟在する。
 基質は細~粗砂からなる。

②層: 礫・砂混じりシルトおよび砂礫
 淡黄橙色 (7.5YR8/3 ~ 10YR8/3)
 礫率は10~40%。礫は風化した花崗岩の垂角~歪円礫。礫径は2~250mm主体。最大150cmの礫を含む。
 基質はシルト、細~粗砂からなる。

熱水変質部: 花崗斑岩の熱水変質部
 灰白色 (7.5YR8/2) ~ 淡黄橙色 (10YR8/4)
 強く風化している。
 全体的に変質している。

破碎部: 花崗斑岩の変質したカタクレーサイト
 灰白色 (7.5YR8/2) ~ 淡黄橙色 (5YR8/4)
 シルト質砂状~砂質シルト状
 カタクレーサイトの特徴が認められる。
 全体的に軟質である。

K断層の最新活動面に関するデータの計測箇所について 性状一覧表に記載した走向・傾斜, 条線方向:

全ての観察面について, 断層面のトレンドを示す代表的な箇所計測。一連の断層面については, 複数計測した平均値を記載。(ただし, Lカットピットについては, 走向・傾斜が断層面のトレンドを示す範囲が狭いことから1箇所とした。1-1ピット北面, 南面, 底盤については各観察面の平均値とした。)

性状一覧表に記載した断層ガウジ・断層角礫の幅:

岩盤中の断層ガウジ・断層角礫について, 平均的な幅を示す箇所計測。

スケッチに記載したデータ:

上記に限らず走向・傾斜, 条線方向及び断層ガウジ・断層角礫の幅を計測可能な出来るだけ多くの箇所計測。

スケッチ名 D-1トレンチLカットピット 1/10 南面スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

作成日・確認日：2022年3月28日

確認者： XXXXXXXXXX

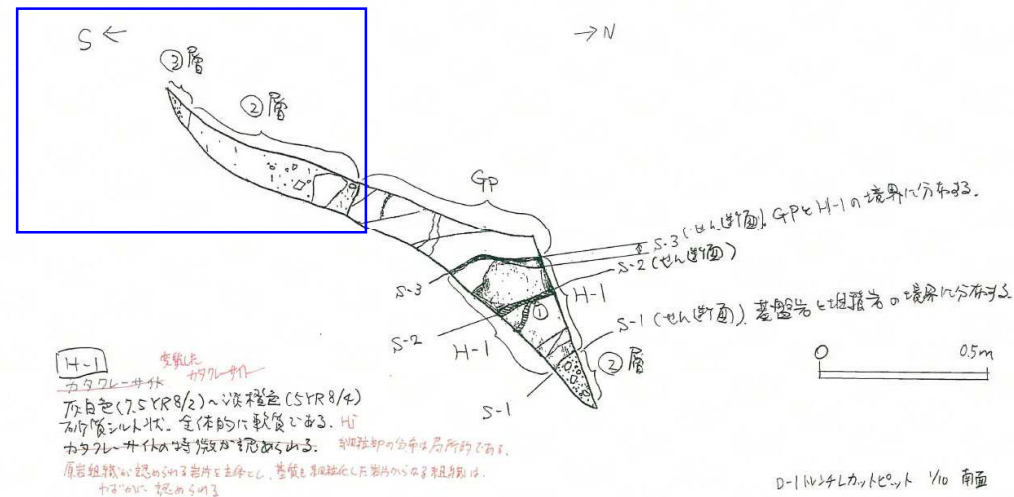
破砕日(変質したカタルーサイト) 2022年7月5日

破砕者： XXXXXXXXXX

- ③層
 浅黄褐色(10YR 8/4)の砂礫である。
 礫率は15%。礫は風化した花崗岩の直角～亜円礫。
 礫径は2～5mm主体。要質は細～粗砂からなる。
- ②層
 浅黄褐色(7.5YR 8/3)の砂礫からなる砂礫である。
 礫率は10～15%。礫は風化した花崗岩の直角～亜円礫。
 礫径は2～20mm主体。要質は細～粗砂からなる。
- GP: 灰白色(7.5YR 8/2)～浅黄褐色(10YR 8/4)の花崗岩質砂礫。
 強く風化している。至体的に炭質している。

① 寸: N22W78W

スケッチ



73 (スケッチ) のエビデンス (2/7)

作成日 2022年 7/5 作成者 [redacted] 確認者 [redacted] 確認日 2022.7.5

No.	地層の柱状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ層図(観測系)																					
			地質名	・粒度構成、層の厚さ、層の厚さ、層の厚さ、層の厚さ、層の厚さ	・その他、断面と異なる状況の特長を記述し、その理由も併せて記述	地層境界	・地層境界の凹凸、不整合、急傾斜が認められる場合、その理由も併せて記述	地層構造	・層理、葉理、風化帯、褶曲、節理、割れ目	土質など	・土質など、地層境界、節理、割れ目、色	走向・傾斜	・走向・傾斜、地層境界、節理、割れ目、色											
	透黄緑色(10YR6/4)の砂礫である。 ① 礫率は15%、礫は最大径3mm程度の高角～亜円礫。 ② 礫径は2~5mm主体。 ③ 基質は細～粗砂からなる。																							
	透黄緑色(10YR6/3)の砂礫シルトおよび砂礫である。 ① 礫率は10~15%、礫は最大径2mm程度の高角～亜円礫。 ② 礫径は2~5mm主体。 ③ 基質はシルト、細～粗砂からなる。																							
Qp	灰白色(10YR8/2)～淡黄緑色(10YR6/4)の花崗岩破片である。 塊状に露出している。 全体的に黄緑している。																							

No.	境界部に関する記事	適正化すべき記事内容	境界部																					
			境界部の性状	境界部内物質	境界部の連続性・連続性	境界部の連続性・連続性	境界部の連続性・連続性	境界部の連続性・連続性	境界部の連続性・連続性	境界部の連続性・連続性	境界部の連続性・連続性	境界部の連続性・連続性												
	① H22W7FW																							
	S-1 せん断面 高角度と低角度の境界に分布する。																							
	S-2 せん断面																							
	S-3 せん断面 Qp-H-10の境界に分布する。																							
	カクレーサイト 灰白色(10YR8/2)～淡黄緑色(10YR6/4) H- 砂礫シルト I 全体的に黄緑である。 カクレーサイトの性状が認められる。	変更したカクレーサイト 砂礫シルト状 灰白色(10YR8/2)～淡黄緑色(10YR6/4) H- 砂礫シルト I 全体的に黄緑である。 砂礫の性状は黄緑である。 境界部が認められる部分を主体とし、基質も細粒化した部分からなる境界はH-が認められる。																						

スケッチ名 D-1トレンチカットピット 1/10 底盤, 西面①スケッチ

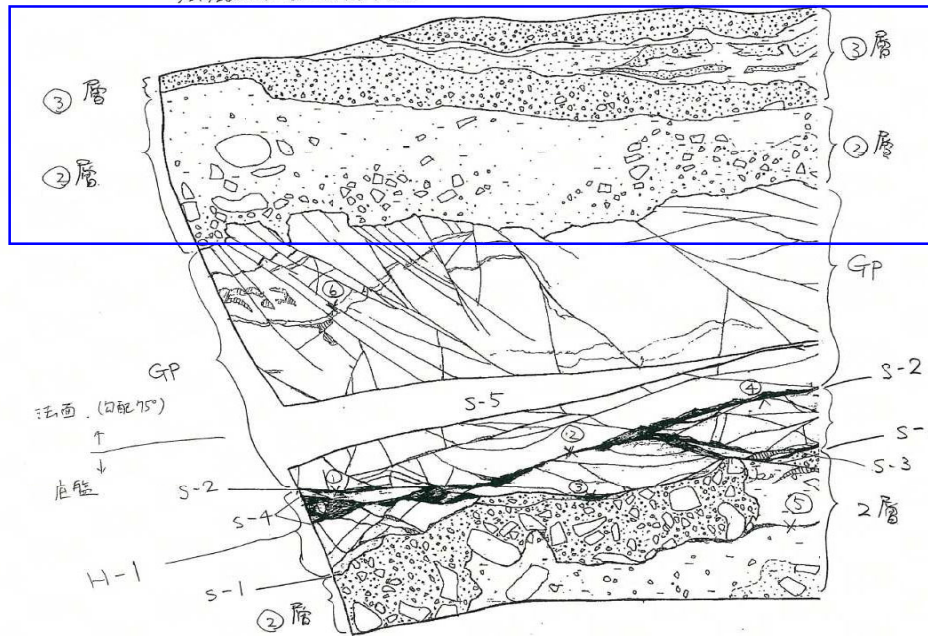
スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位, スケール(または, グリッドの間隔)

○

③層: 淡黄褐色(10YR8/4)の砂礫主体
 礫率は5%~20%。礫は風化した花崗岩の亜角~亜円礫
 礫径は10mm以下主体。シルト質砂分へ砂質シルト層状に挟まれる。
 基質は細~粗砂からなる。
 GP: 灰白色(7.5YR8/2)~淡黄褐色(10YR8/4)の花崗斑岩である。
 強く風化している。全体的に変質している。

②層: 淡黄褐色(7.5YR8/3)の礫、砂礫シルト状の砂礫である。
 礫率は10~20%。礫は風化した花崗岩の亜角~亜円礫。礫径は10~200mm主体。
 基質はシルト、細~粗砂からなる。下部は砂礫主体、上部は礫、砂礫シルト主体。

スケッチ



- ① f: N35W89E
- ② f: N13W85N
- ③ f: N20W81N
- ④ f: N30W83E
- ⑤ f: N58E
- ⑥ f: N25E75W

S-1: せん断面。黄褐色粘土、厚さ1~3mm。Hc-1
 基盤部と堆積岩の境界に分布する
 細粒部はせん断面に沿って連続的に
 分布する。断層からなる。
 ・粗粒部は軟弱で、原岩粗粒部が認められるが、
 基盤部と粗粒部との境界は不明である。

S-2: せん断面。GP-1とGP-2の境界に分布する。
 S-3: せん断面。S-1から分岐する。
 S-4: せん断面。S-2から分岐する。
 S-5: せん断面。同じせん断面だが、右側の変位は
 左側のR1面である。

H-1: カタール-ヤイト 気孔状カチオン交換
 灰白色(7.5YR8/4)~
 淡褐色(5YR8/4) Hj 粗粒部の分粒は局所的
 シルト質砂状~砂質シルト状。カタール-ヤイト
 特徴が認められる。全体的に変質である。
 ・原岩粗粒部が認められるが、基盤部と粗粒部との
 境界は不明である。粗粒部は右側に認められる。

作成日・確認日: 2022年3月28日

確認者: [Redacted]

確認日 (学質) 6979-4(1) 2022年7月5日

確認者: [Redacted]

D-1 トレンチカットピット 1/10 底盤, 西面①

73 (スケッチ) のエビデンス (4/7)

2022年
7/5

2022.7.5

No.	議題の概要(議案)	議案の趣旨	議案の目的(効果)											議案の意義			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11				
1	議案第1号(議案)	議案第1号(議案)															
2	議案第2号(議案)	議案第2号(議案)															
3	議案第3号(議案)	議案第3号(議案)															
4	議案第4号(議案)	議案第4号(議案)															
5	議案第5号(議案)	議案第5号(議案)															
6	議案第6号(議案)	議案第6号(議案)															
7	議案第7号(議案)	議案第7号(議案)															
8	議案第8号(議案)	議案第8号(議案)															
9	議案第9号(議案)	議案第9号(議案)															
10	議案第10号(議案)	議案第10号(議案)															
11	議案第11号(議案)	議案第11号(議案)															
12	議案第12号(議案)	議案第12号(議案)															
13	議案第13号(議案)	議案第13号(議案)															
14	議案第14号(議案)	議案第14号(議案)															
15	議案第15号(議案)	議案第15号(議案)															
16	議案第16号(議案)	議案第16号(議案)															
17	議案第17号(議案)	議案第17号(議案)															
18	議案第18号(議案)	議案第18号(議案)															
19	議案第19号(議案)	議案第19号(議案)															
20	議案第20号(議案)	議案第20号(議案)															

青杵：地層境界に関する部分 73 (スケッチ) のエビデンス (5/7)

スケッチ名 D-1トレンチカットピット 1/10 底盤, 西面②スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

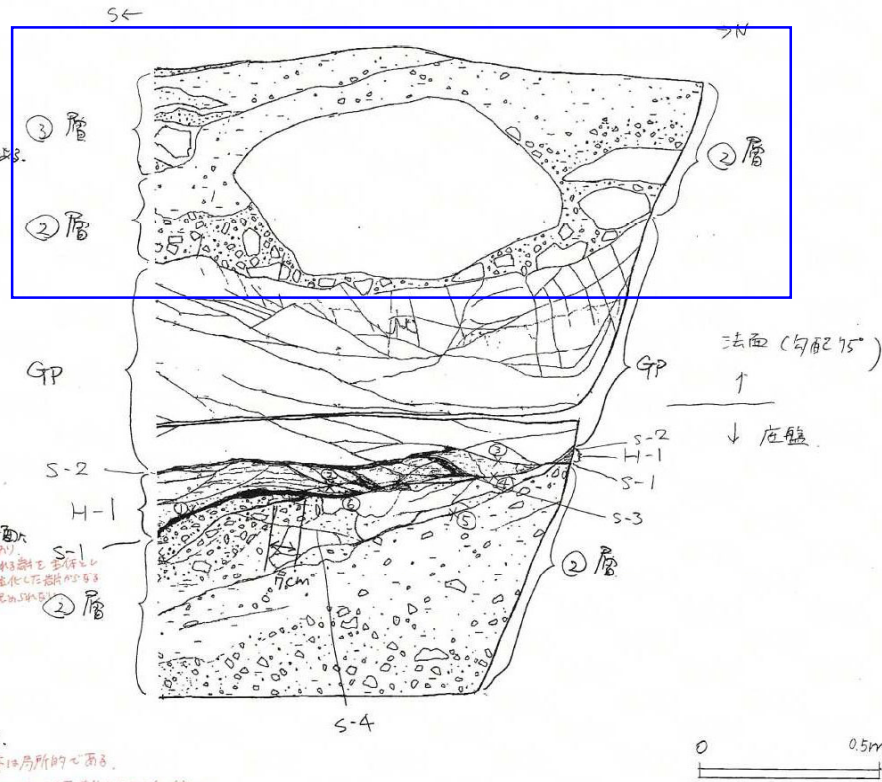
○

③層
 淡黄褐色(CSTR8/4)のシル質砂・砂質シルトである。
 砂量は15~40%、礫は同化L大花崗岩の更角~匣内礫。
 石塊径は10~250mm主体、最大50mmの石塊を含有。
 互層シルト、細~粗砂からなる。
 下部は砂礫主体、上部は礫・砂混じりシルト主体。
 GP: 灰白色(LSTR8/2)~淡黄褐色(OSTR8/4)の花崗岩碎片が
 強く風化している。全体的に変質している。

- ① f: N79W78W
 素材・R60
- ② f: N33E80W
- ③ f: N88E74W
- ④ f: N98E68W

- ⑤ f: N89E24W
- ⑥ f: N67E66W
 素材・R80

S-1: セル断面、灰白~褐色粘土 1層1~5mm Hc-1
 基盤岩と堆積岩の境界は分る。粗粒部はセル断面
 して断片的に分る。断面がウツ。
 粗粒部は軟弱(土質)
 粗粒部は軟弱(土質) 基盤岩と堆積岩の境界は分る。断面がウツ。
 S-2: セル断面、GP-1とGP-2の境界は分る。粗粒部は軟弱(土質)
 粗粒部は軟弱(土質) ②層
 S-3: セル断面、S-1から分る。
 S-4: セル断面、a層の砂礫層にみかけ右2~3
 7cmの厚さを与えるR1面である。
 H-1: カクテル皿体 実際はカクテル皿体 Hj
 灰白色(CSTR8/2)~淡黄褐色(STR8/4)
 シル質砂・砂質シルト。全体的に軟弱である。
 カクテル皿の特性が認められる。粗粒部は分る場所がある。
 厚さ粗粒部が認められる。基盤岩と堆積岩の境界は分る。断面がウツ。
 のすかに認められる。



作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]
 確認日(実地): 2022年7月5日
 確認者: [Redacted]

D-1 トレンチカットピット 1/10 底盤, 西面②

73 (スケッチ) のエビデンス (6/7)

2024/4/5

2022.7.5

スナック名: 中央心臓センター(株) 11号 焼肉 焼肉スナック		検査日	検査者	検査日	検査者															
No.	検査対象の箇所(部位)	検査内容(検査項目)	スナック検査(検査項目)																	
			検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目								
1	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	焼肉スナック(焼肉)の検査	焼肉スナック(焼肉)の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

D-1トレンチLカットピット写真

73 (スケッチ) のエビデンス (7/7)



余白

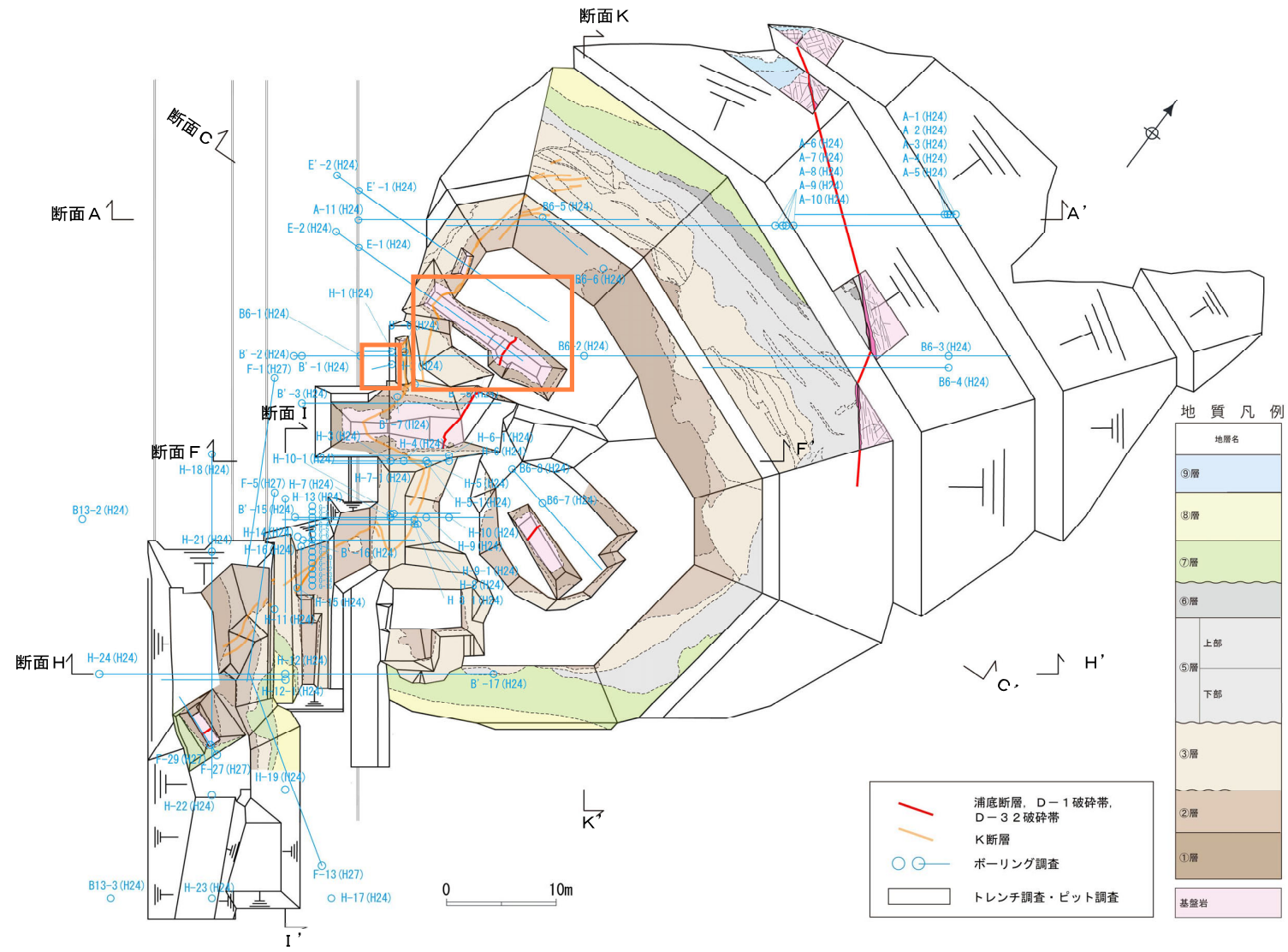
K断層の連続性評価について

D-1トレンチ断面図(断面位置図)

74 (地質平面図)

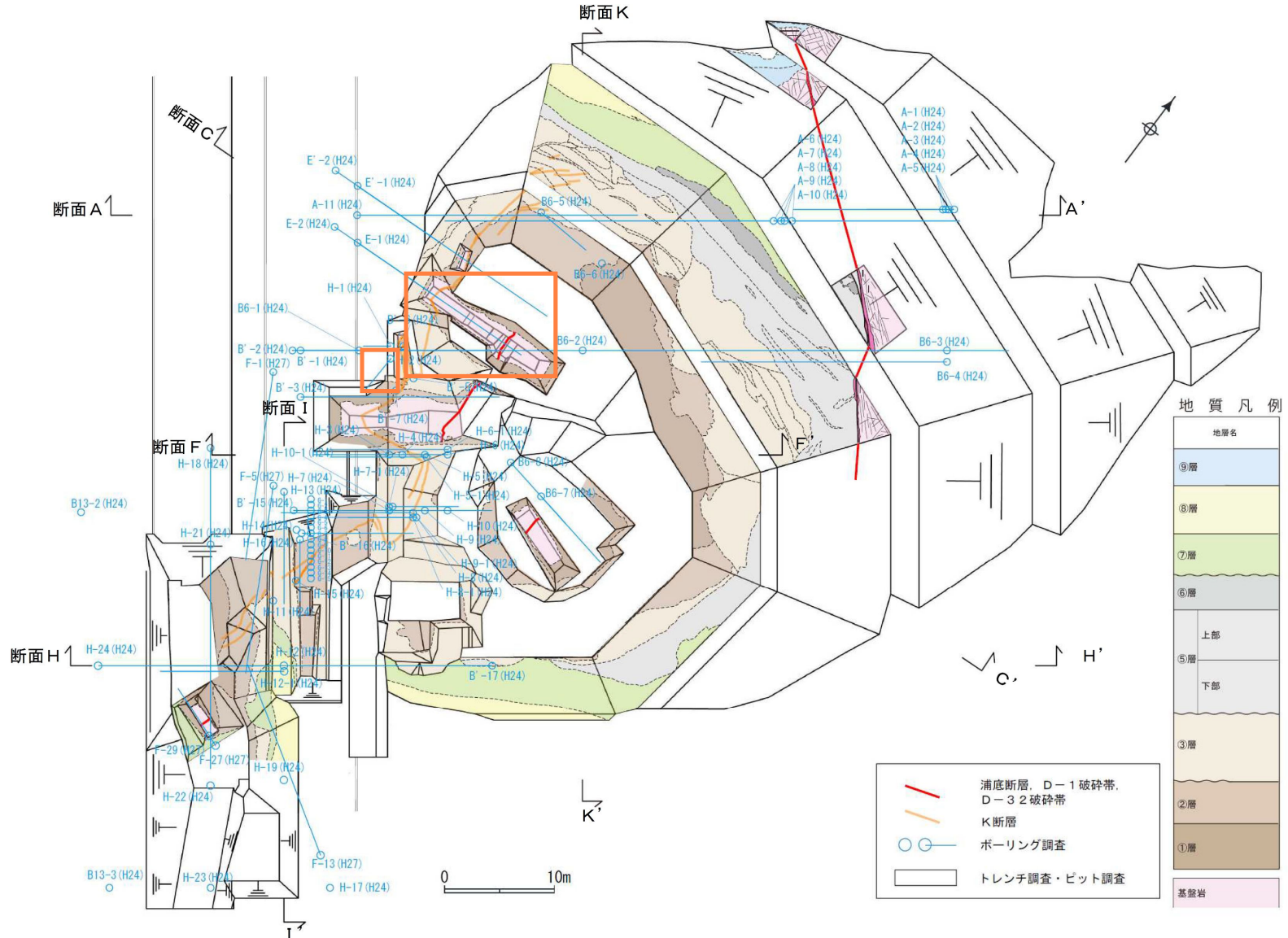
修正箇所：橙色枠

- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては、K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において、連続して認められる(断面K、断面A、断面C、断面F及び断面I)。



D-1トレンチ断面図(断面位置図)

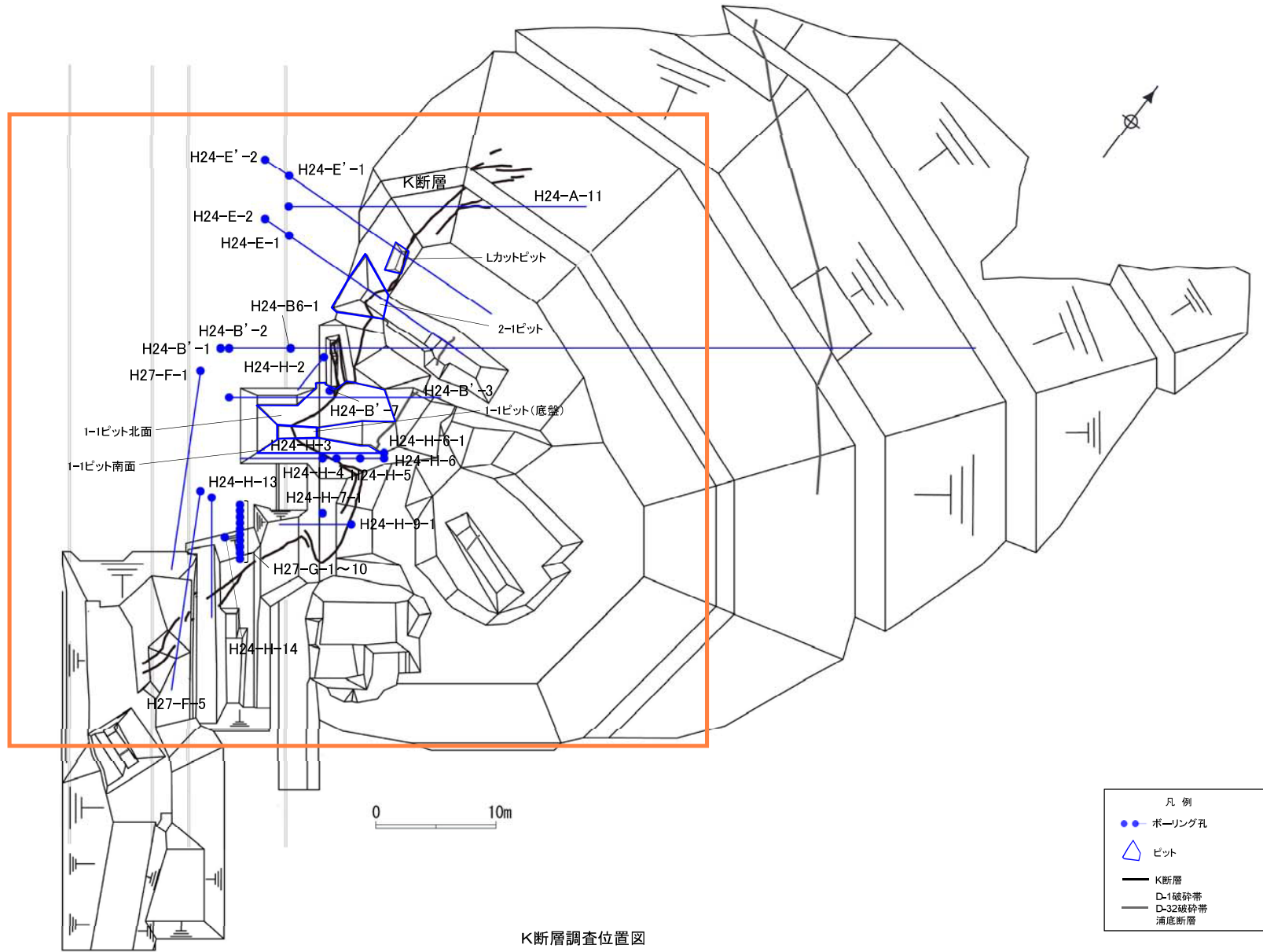
- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては、K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において、連続して認められる(断面K, 断面A, 断面C, 断面F及び断面I)。



3. K断層
調査位置図

74 (K断層確認ボーリング孔の位置図)
修正箇所：橙色枠

修正前



K断層調査位置図

参考2-42